

平成 30 年度第 2 回上越市食育推進会議次第

日時：平成 31 年 2 月 5 日（火）

午後 1 時 30 分から

会場：上越市役所 401 会議室

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

- (1) 平成 30 年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）進捗管理について
- (2) 第 3 次上越市食育推進計画指標項目の取組状況について
- (3) 意見交換
 - ・平成 30 年度食育市民アンケート調査結果から見る「食育の実践の環」を広げるための方策

4 その他

5 閉 会

上越市食育推進会議委員名簿

(平成30年7月26日～)

No.	氏名	選出区分	備考
1	高橋慶一	学識経験者	上越医師会副会長（高橋医院院長）
2	野口孝則	学識経験者	上越教育大学大学院教授
3	井上智代	学識経験者	新潟県立看護大学講師
4	池嶋聖也	学識経験者	新潟県立高田北城高等学校長
5	上野則子	学識経験者	上越市立黒田小学校長
6	藤田芽美子	学識経験者	上越市立いたくら保育園長
7	岩崎洋一	公募に応じた市民	
8	笹原絢子	公募に応じた市民	
9	山本敦子	公募に応じた市民	
10	小林小枝子	事業者	えちご上越農業協同組合 営農部地域ふれあい課課長補佐
11	坂口祐輔	事業者	株式会社 セブン-イレブン・ジャパン 上越地区ディストリクトマネジャー
12	樋口聖子	食育関係団体の代表者	一般社団法人新潟県歯科衛生士会 上越ブロック長
13	吉村和代	食育関係団体の代表者	新潟県学校栄養士協議会（上越市立三和中学校栄養教諭）
14	平澤栄一	食育関係団体の代表者	上越の食を育む会 副会長
15	松原宏美	食育関係団体の代表者	上越地域総合健康管理センター管理栄養士
16	松井和代	食育関係団体の代表者	上越市総合型スポーツクラブネット理事
17	西舘茉侑	食育関係団体の代表者	上越教育大学食育サークル「Heart」
18	八木智学	市の職員	健康福祉部長
19	近藤直樹	市の職員	農林水産部長
20	柳澤祐人	市の職員	教育部長

平成31年2月5日
上越市食育推進会議
資料 NO. 1

平成30年度
上越市食育推進実施計画
(アクションプラン)
進捗管理表

平成31年2月

上 越 市

ページ	事業No.及び事業名	事業担当課
1	(1)-① 母子保健事業(すくすく赤ちゃんセミナー)	健康づくり推進課
2	(1)-② 乳幼児期の食育推進	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
3	(1)-③ 学校における食育の推進	学校教育課
4	(1)-④ 思春期・青年期の食育の推進	健康づくり推進課・学校教育課
5	(1)-⑤ 保健指導事業	健康づくり推進課
6	(1)-⑥ 保健指導事業	健康づくり推進課
7	(1)-⑦ 母子保健事業、保健指導事業	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
8	(1)-⑧ 歯科保健事業の推進	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
9	(1)-⑨ 健康づくり支援店の拡大	健康づくり推進課
10	(1)-⑩ 身体機能維持支援事業	健康づくり推進課
11	(2)-① 保健指導事業	健康づくり推進課
12	(2)-② 保健指導事業	健康づくり推進課
13	(2)-③ 生活習慣病予防事業	健康づくり推進課
14	(3)-①-① 家庭菜園での栽培体験等の推進	農村振興課
15	(3)-①-② 食に関するイベント等の実施	農村振興課
16	(3)-①-③ 食生活の改善に必要な情報提供	農村振興課・関係課
17	(3)-①-④ 家族での共食についての啓発活動	農村振興課
18	(3)-②-① 保育園・幼稚園・小中学校での食の体験活動	学校教育課・保育課
19	(3)-②-② 家庭や地域とともに進める食に関する教育活動	学校教育課
20	(3)-②-③ 特色ある食に関する教育活動の推進	学校教育課
21	(3)-③-① 保健指導事業、食生活改善事業	健康づくり推進課
22	(3)-③-② 日本型食生活の普及活動	農村振興課
23	(3)-③-③ 国が定める「食育月間」、「食育の日」の普及活動	農村振興課
24	(3)-③-④ 地域での共食についての情報提供	農村振興課
25	(4)-① 郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施	社会教育課
26	(4)-① 謙信KIDSプロジェクト	社会教育課
27	(4)-① 「発酵のまち上越」の啓発活動	上越ものづくり振興センター
28	(4)-② 地場の食品、郷土料理を取り入れた学校給食の推進	教育総務課
29	(4)-③ 地産地消推進の店認定事業	農村振興課
30	(5)-① 食育推進関連団体との連携強化	農村振興課・関係課
31	(5)-② 健康づくり推進協議会の開催	健康づくり推進課
32	(6)-① 食育に関する積極的な情報提供	農村振興課・関係課
33	(6)-① 給食だよりの発行による情報提供	教育総務課
34	(6)-② 食育フォーラムの開催	農村振興課・関係課
35	(7)-① 食の安全に関する情報発信	健康づくり推進課
36	(7)-② 農畜産物の表示に関する研修や啓発活動の実施	農政課
37	(7)-③ 農林水産物等の放射性物質検査の情報発信	農政課・農林水産整備課
38	(8)-① 地域食材による給食の提供	教育総務課
39	(8)-① 学校給食用野菜産地の育成	農政課
40	(8)-② 直売所情報の発信	農政課
41	(9)-① 園芸振興事業	農政課
42	(9)-② 農林漁業体験活動等の情報提供	農村振興課
43	(9)-③ 都市と農村の交流促進	農村振興課
44	(10)-① 多面的機能支払(生物多様性保全の推進)	農林水産整備課
45	(10)-① 環境保全型農業直接支援対策	農政課
46	(10)-② 桑取川魚の森づくり事業	農林水産整備課
47	(10)-③ 食品ロス削減に関する啓発活動	農村振興課

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-① 母子保健事業(すくすく赤ちゃんセミナー)
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	妊婦が正常な妊娠の維持と出産ができるよう、また妊婦健診の結果に応じた生活が分かるようにし、両親の将来の生活習慣病予防にもつなげる。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	すくすく赤ちゃんセミナーを実施し、妊産婦等へ食育の啓発を行う。				
(目標)	妊婦やその家族が妊婦の食生活の重要性について理解を深める。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・すくすく赤ちゃんセミナーにおいて、妊娠・出産・育児の正しい知識を学び、妊娠期から子どもの成長や発達・育児について考える機会を持ち、子どもが健やかに育つことができるよう支援した。 ・事業実施後のアンケートから、妊婦に加えて夫も含めた親自身の食生活の振り返りができたという感想が聞かれた。 ・妊娠期の栄養について、「何のために」必要かが分かり、自分の過不足を改善する声(例：葉物野菜を増やしたい等)を具体的に伺うことができた。 ・すくすく赤ちゃんセミナー(中期) 初産婦参加率 61.1% 妊婦に対して夫の参加率 67.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ・すくすく赤ちゃんセミナーにおいて、妊娠・出産・育児の正しい知識を学び、妊娠期から子どもの成長や発達、育児について考える機会を持ち、子どもが健やかに育つことができるよう支援した。 ・事業実施後のアンケートから、「妊婦とその家族の生活の振り返りができた」という感想が聞かれた。また、「妊婦健診の結果を確認の上で、生活習慣を見直したい」等、自分の体と生活を結びつけた感想も伺うことができた。 ・すくすく赤ちゃんセミナー(中期) 初産婦参加率 63.9% 妊婦に対して夫の参加率 73.3% (H30.12月末現在)
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じた健康づくりは妊娠期から始まることから、今後も参加率の向上にも努め、妊婦やその家族が食生活の重要性について理解を深める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じた健康づくりは妊娠期から始まることから、妊婦やその家族が食生活や休養等の生活習慣の重要性について理解を深めることができるよう支援を続ける必要がある。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-② 乳幼児期の食育推進
事業担当課	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
取組の概要	子どもの成長・発達に応じた食生活についての正しい知識の啓発や、生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	母子健診、離乳食相談会、訪問、保育園・認定こども園・幼稚園の健康講座を実施し、健全な食生活の啓発を行う。				
(目標)	肥満、やせの子どもを減らす。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	△
主な事業実績	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離乳食相談会、乳幼児健康診査において、子どもの発育発達にあった食生活について健康教育、健康相談を実施した。また、必要に応じて個別相談や家庭訪問による保護者への支援を実施した。 ・3歳児健康診査における状況 肥満傾向児の割合 平成27年度4.7%→平成28年度4.3% やせの割合 平成27年度0.6%→平成28年度0.5% <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子の発育状況を保護者が視覚的に確認することができるよう「成長曲線」の記録用紙(園で測定した身長・体重の値を保護者がグラフにつけていくもの)を用いた取組を公立保育園6園において試行的に実施した。保護者から「点を付けるだけで今の成長状況が分かる」、「毎月の身長、体重を気にするようになった」等の声が聞かれた。また、保育士からは「成長の変化が見えるため、子育て支援につながりやすい」といった意見が寄せられた。 ・肥満傾向にある園児については、保育園と地区担当の保健師、栄養士が連携し、保護者と面談して栄養指導等を実施した。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園では、日常的に紙芝居や絵本などを用いて、望ましい食習慣が身につくよう指導を実施した。 ・肥満傾向にある園児については、保護者と面談して栄養指導等を実施した。 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離乳食相談会、乳幼児健康診査において、子どもの発育発達にあった食生活について、健康教育、健康相談を実施した。また、必要に応じて個別相談や家庭訪問による保護者への支援を実施した。 ・3歳児健診における状況 肥満傾向児の割合 平成28年度 4.3%→平成29年度 4.9% やせの割合 平成28年度 0.5%→平成29年度 0.2% <p>肥満傾向児の割合が増えてきていることから、30年度途中から、1歳以降の全ての幼児健康診査の内容を充実化し、計測後すぐに肥満度を算出、成長曲線に記録の上で、成長曲線に基づいた個別の栄養相談を強化している。</p> <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園及び認定こども園において、「成長曲線」の活用を開始した。 ・保護者が子の身長、体重をグラフに自ら記入することにより、子の発育状況を視覚的に確認することができるようになった。 ・肥満傾向の園児については、園と地区担当の保健師、栄養士が連携し、保護者面談等の支援を行っている。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園では、日常的に紙芝居や絵本などを用いて、望ましい食習慣が身につくよう指導を実施した。 ・肥満傾向にある園児については、保護者と面談して栄養指導等を実施した。
今後の課題・反省点	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥満傾向児の減少に向けて、3歳児健診までの乳幼児健康診査において、生活リズムや食生活についての健康教育、成長曲線の活用を充実していく。今後も保育園・学校と連携し、保護者及び家族への支援を継続する必要がある。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「成長曲線」(記録用紙)を用いた取組については、問題点等を整理しながら全保育園及び認定こども園に拡大していく。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必用に応じて個別相談を実施するなど保護者への支援を継続するとともに、健康教育を充実させる。 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥満傾向児の減少に向けて、3歳児健診までの乳幼児健康診査において、生活リズムや食生活についての健康教育、成長曲線の活用を充実していく。また、集団指導に加えて、個別指導を強化していく。 ・今後も保育園や学校、必要に応じて医療機関とも連携し、保護者及び家族への支援を継続する必要がある。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥満ややせの減少に向け、「成長曲線」を活用しながら、適切なタイミングで支援につなげていくことが必要である。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「成長曲線」を活用しながら個別相談を実施するなど、保護者への支援を継続するとともに、健康教育を充実させる。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-③ 学校における食育の推進
事業担当課	学校教育課
取組の概要	食に関する指導の全体計画に基づき、食に関する教育活動を実施する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	給食だよりを毎月発行するとともに、栄養教諭や栄養職員と連携した給食指導を実施する。				
(目標)	児童生徒が食に対する正しい知識について理解を深める。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての小中学校で、給食だよりを毎月発行し、栄養バランスのとれた食事の重要性、食事のマナー、食品の栄養等について情報提供した。 ・食に関する全体計画に基づき、栄養教諭や栄養職員と連携して食に関する指導を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての小中学校で、給食だよりを毎月発行し、栄養バランスのとれた食事の重要性、食事のマナー、食品の栄養等について情報提供した。 ・食に関する全体計画に基づき、栄養教諭や栄養職員と連携して食に関する指導を実施した。
今後の課題 ・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域との連携をより充実、発展させ、様々な機会を通して食に関する情報発信、情報提供を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域との連携をより充実、発展させ、様々な機会を通して食に関する情報発信、情報提供を継続する。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-④ 思春期・青年期の食育の推進
事業担当課	健康づくり推進課・学校教育課
取組の概要	学校保健委員会や授業の一環として、自分の体にあわせた食事のとり方等の指導を行い、心身の成長や健全な生活習慣の基礎を確立するための支援を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	学校保健委員会や学校授業の中で身体の成長発達にあわせた食事の摂り方等を呼びかける。				
(目標)	正しい食の知識を持った生徒や若者を増やす。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期には、生活習慣病予防に関する健康講座を高校で実施（上越高校、南城高校、高田高校、安塚分校、高田特別支援学校）。養護教育と連携し、生徒の実態に合わせた講座を実施した。 ・実施後のアンケートから、生徒自身が自分の生活を振り返り、この先の健康を考え、生活リズムや食生活について、今の時期にやるべきことを考えてもらう学習の機会となったことが伺えた。 ・青年期には、市民健康診査、健診結果説明会、家庭訪問、企業への健康教育において、体と食生活の関係を理解し、生活習慣を見直す支援として実施した。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活や生活リズムをテーマにした学校保健委員会を開催し、児童生徒が自分の食生活について考える場面を取り入れたり、栄養教諭や栄養職員と連携して、食に関する指導を実施したりした。 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期に関しては、生活習慣病予防に関する健康講座を希望した南城高校、有恒高校、高田特別支援学校の3校で実施した。講座の内容については、養護教諭と連携しながら、生徒の実態に合わせた内容とした。 ・実施後のアンケートから、生徒自身が自分の生活を振り返るとともに、生活リズムや食生活について、今できることを考えてもらう学習の機会となったことが伺えた。 ・青年期に関しては、市民健康診査や健診結果説明会、家庭訪問、企業での健康教育において、自身の体の状態を理解し、生活習慣を見直すための支援を行った。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活や生活リズム、生活習慣病予防教育をテーマにした学校保健委員会を開催し、食について考える機会を設けた。 ・栄養教諭と連携し、学校生活のさまざまな機会をとらえ食に関する指導を実施した。
今後の課題・反省点	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、各学校生徒の実態・課題を養護教諭等と確認しながら、就職や進学等、自立へ向かうこの時期に、自ら生活を振り返り、将来の見通しを立て、食生活等の選択力、実践力をつけていく取組が必要である。 ・今後の取組推進に向けては、高校生の実態把握と共に、保健所と大学が実施した大学生の食生活実態調査を活用し、今後の対策を検討していくことも必要である。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイル調査を基に、児童生徒の実態を把握し、健康教育を継続する。 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、各学校生徒の実態・課題を養護教諭等と確認しながら、就職や進学等により、自立した生活に向かう時期に、将来の見通しを立てながら、自らの生活を振り返り、体の状態に合わせた食の選択力や実践力をつけていく取組が必要である。また、現在、一部の高校のみで実施している状況であることから、講座を実施していない高校に向けて、取り組んでもらうよう働きかけを行う必要がある。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイル調査を基に、児童生徒の実態を把握し、健康教育を継続する。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-⑤ 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	自身の食習慣と身体の状況を考え合わせながら、適正な食事量の摂取を心がけ、生活習慣病の予防を啓発する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で、適正な食事量の摂取、生活習慣病予防の働きかけをしていく。				
(目標)	適正な生活習慣、食習慣を実践している人を増やす。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会（平成28年度445回、参加者数8,195人）や家庭訪問（平成28年度延べ8,093人）では、自分の健診結果と食生活を関連付け、健診結果の改善につながるよう支援した。（平成27年度 健診結果説明会435回、参加者数8,363人、家庭訪問延べ7,758人） ・地域や職域での健康教育を行い、健診結果と食習慣のつながりについて説明した。（平成28年度435回、参加者数14,474人、平成27年度415回、参加者数14,144人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会・家庭訪問では自分の健診結果と食生活を関連付け、健診結果の改善につながるよう支援した。 <結果説明会> 平成29年度 429回 参加者数 7,652人 平成30年度 361回 参加者数 5,192人 (H30.12月末現在) <家庭訪問・個別指導> 平成29年度 延べ 9,010人 平成30年度 延べ 9,479人 (H30.12月末現在) ・地域や職域での健康教育を行い、健診結果と食習慣のつながりについて説明した。 平成29年度 406回 参加者数 13,200人 平成30年度 265回 参加者数 9,967人 (H30.12月末現在)
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会や家庭訪問の回数、参加者数は前年度を上回った。広く市民に、健診を受け自らの健康状態を理解することの重要性を伝え、生活習慣病予防の普及・啓発活動を行っている。特に働き盛り世代に、市の健康実態や健診結果の見方などについて理解してもらえるよう、今後も継続した取組が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の健診結果説明会から個別性を重視した家庭訪問に支援方法を変更し、広く市民に、健診を受け自らの健康状態を理解することの重要性を伝え、生活習慣病予防の普及・啓発活動を行っている。特に働き盛り世代に、市の健康実態や健診結果の見方などについて理解してもらえるよう、今後も継続した取組が必要である。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-⑥ 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	高齢期での心身の変化を踏まえ、自身の食習慣と身体の状態を考え合わせながら、健康維持のために必要な適正な食事量の摂取について啓発を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	地域で行う健康講座などで高齢期における適正な食事量の摂取などについて啓発を行う。				
(目標)	正しい食の知識を持った高齢者を増やす。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	△
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健診結果説明会や家庭訪問では、自分の健診結果と食生活を関連付け、健診結果の改善につながるよう支援した。 ・ 高齢者健康支援訪問（H28年度延べ2,994件）を行い、自分の健康状態（健診結果）を把握し、改善につながるよう支援した。 ・ 地域の健康講座の中で健康教育を行い、健診結果と食習慣のつながりについて説明した。 ・ 平成28年度の高齢者（65歳以上）の適正体重を維持している人の割合が59.1%であり、低栄養傾向の割合、肥満の割合が同等程度みられた。 内訳：低栄養傾向（BMI20以下）の割合20.2% 肥満（BMI25以上）の割合20.7% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健診結果説明会や家庭訪問では、自分の健診結果と食生活を関連付け、健診結果の改善につながるよう支援した。 ・ 高齢者健康支援訪問を行い、自分の健康状態（健診結果）を把握し、改善につながるよう支援した。 平成29年度 延べ 2,977件 平成30年度 延べ 1,983件（H30.12月末現在） ・ 地域の健康講座の中で健康教育を行い、健診結果と食習慣のつながりについて説明した。 ・ 高齢者（65歳以上）の適正体重を維持している人の割合 平成29年度 58.6% 平成30年度 56.8%（H30.12月末現在） ・ 低栄養傾向（BMI20以下）と肥満（BMI25以上）の割合 ○低栄養傾向 平成29年度 20.4% 平成30年度 20.9%（H30.12月末現在） ○肥満 平成29年度 21.0% 平成30年度 22.3%（H30.12月末現在）
今後の課題 ・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢期の特性を踏まえ、栄養バランスの偏りなどによる低栄養や生活習慣病などの問題を未然に防ぎ、健康寿命を延ばせるよう、健康状態に応じた食生活を実践できるよう支援を継続していく必要がある。 ・ さらには、高齢期の健康を維持するために、より早い段階から適正な食事量の摂取などについて啓発を行い、低栄養の予防等を推進していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢期の特性を踏まえ、栄養バランスの偏りなどによる低栄養や生活習慣病などの問題を未然に防ぎ、健康寿命を延ばせるよう、健康状態に応じた食生活を実践できるよう支援を継続していく必要がある。 ・ さらには、高齢期の健康を維持するために、より早い段階から適正な食事量の摂取などについて啓発を行い、低栄養の予防等を推進していく必要がある。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-⑦ 母子保健事業 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面で生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	各ライフステージで行われる健康教育の中に朝食をきちんと摂ることの必要性についての内容を盛り込み啓発をしていく。				
(目標)	朝食を欠食する人を減らす。 小学生0% 中学生0% 若い世代 10%以下	小学生0% 中学生0% 若い世代 9%以下	小学生0% 中学生0% 若い世代 8%以下	小学生0% 中学生0% 若い世代 7%以下	小学生0% 中学生0% 若い世代 6%以下

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	△	△
主な事業実績	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期(すくすく赤ちゃんセミナー)、乳幼児期(各乳幼児健診、相談会)、学童期(小中学校血液検査事業、学校保健委員会等)、思春期(高校健康教育)、成人期・高齢期(企業での健康教育、地区健康講座等)において、各ライフステージの特性を踏まえ、体のリズムと朝食を摂ることの必要性に関する健康教育を実施した。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立保育園全園(42園)において、保健師や栄養士等が保護者を対象に子どもの生活リズムや食生活に関する「健康教育講座」を年1回実施した。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康的な生活行動が実践できるよう、食事、睡眠、運動の健康三原則を学ぶ保健学習や保健指導を実施した。 ・朝食を欠食する市民の割合 小学生：2.5% 中学生：4.3% 若い世代：7.4% (食育市民アンケート結果) 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期(すくすく赤ちゃんセミナー)、乳幼児期(各乳幼児健診、相談会)、学童期(小中学校血液検査事業、学校保健委員会等)、思春期(高校健康教育)、成人期・高齢期(企業での健康教育、地区健康講座等)において、各ライフステージの特性を踏まえ、体のリズムと朝食を摂ることの必要性に関する健康教育を実施した。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立保育園全園において、保健師や栄養士等が保護者を対象に子どもの生活リズムや食生活に関する「健康教育講座」を年1回実施した。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康的な生活行動が実践できるよう、食事、睡眠、運動の健康三原則に関する保健学習や保健指導を実施した。 ・朝食を欠食する市民の割合 小学生：4.2% 中学生：6.2% 若い世代：15.2%(食育市民アンケート結果)
今後の課題・反省点	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代から食生活の乱れが見られることから、引き続き各ライフステージにおいて、様々な場面で健全な食生活についての健康教育が必要。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「健康教育講座」を継続実施していく。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に応じた指導を継続していく。 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代から食生活の乱れが見られ、乳幼児期からの肥満や生活習慣病の発症も懸念されることや、高齢期においても過剰栄養の生活習慣病の重症化だけでなく、低栄養からの要介護状態も懸念されることから、各ライフステージの特性を踏まえて、様々な場面で健全な食生活についての健康教育が必要である。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「健康教育講座」を継続実施していく。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂取の重要性について指導を継続する。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-⑧ 歯科保健事業の推進
事業担当課	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面でよく噛んで食べる習慣の啓発を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	各ライフステージで行われる歯科保健教育の中でよく噛んで食べることの重要性についての内容を盛り込み啓発をしていく。				
(目標)	ゆっくりよく噛んで食べる人を増やす。 65%以上	66%以上	67%以上	68%以上	70%以上

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	△
主な事業実績	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳児から定期的な歯科健診、希望者へのフッ素塗布、ブラッシング指導や食生活指導等の健康教育や健康相談を実施した。 ・成人期においては、成人歯科健診や歯周病の簡易検査等を実施した。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育園を除く全ての公私立保育園及び認定こども園に歯科衛生士等を派遣し、園児と保護者に歯の大切さの講話とブラッシング指導を実施した。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園、すべての小中学校に歯科衛生士を派遣し、ブラッシング指導並びに健康な歯を保つための取組を実施した。 ・給食の時間に、よく噛んで食べることの重要性について指導を実施した。 <p>【食育市民アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合：70.2% 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離乳食相談会において、オーラルトレーニングについて、1歳児以降定期的な歯科健診とブラッシング指導、希望者へのフッ素塗布、食生活指導等の健康教育や健康相談を実施した。 ・成人期においては、成人歯科健診とブラッシング指導、集団健診での問診項目に咀嚼の項目を加えて保健指導を行った。以前から実施している歯周病の簡易検査に併せて歯科衛生士による健康教育を実施した。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育園を除く全ての保育園及び認定こども園に歯科衛生士等を派遣し、園児と保護者に歯の大切さの講話とブラッシング指導を実施した。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての幼稚園、小中学校に歯科衛生士を派遣し、ブラッシング指導並びに健康な歯を保つための取組を実施した。 ・給食の時間に、よく噛んで食べることの重要性について指導を実施した。 <p>【食育市民アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合：43.3%
今後の課題・反省点	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯周病の発症が低年齢化し、年齢が上がるにつれて歯周病と診断される人が増加しているため、幼児健診やすくすく赤ちゃんセミナー等の様々な機会を通じて歯周病予防の啓発を行っていく必要がある。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、保育園及び認定こども園での取組を継続していく。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、歯科保健教育を継続していく。 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯周病の発症が低年齢化し、年齢が上がるにつれて歯周病と診断される人が増加しているため、幼児健診や離乳食相談会等の母子事業、すくすく赤ちゃんセミナー等の様々な機会を通じて歯周病予防の啓発を継続して行っていく必要がある。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、保育園及び認定こども園での取組を継続していく。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、歯科保健教育を継続していく。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-⑨ 健康づくり支援店の拡大
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	県と連携し、健康づくり支援店の普及をすすめる。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	市ホームページなどを通じ健康づくり支援店制度に関する情報提供を行う。				
(目標)	健康づくり支援店を225軒以上にする。		健康づくり支援店を230軒以上にする。		健康づくり支援店を236軒以上にする。

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	◎	◎
主な事業実績	<p>・県と連携し、健康づくり支援店で食に関する取組を実施した。登録店は平成29年12月末254件と増加した。 (平成28年度末 230件 比較：24件)</p>	<p>・県と連携し、健康づくり支援店で食に関する取組を実施した。登録店は平成29年度で258件、前年度から28軒増加した。(県集計数値)</p>
今後の課題・反省点	<p>・目標件数は達成した。今後も継続して事業主に市の健康実態や食に関する情報提供等を行い、健康づくり支援店増加の働きかけを継続していく必要がある。</p>	<p>・目標件数は達成した。今後も継続して事業主に市の健康実態や食に関する情報提供等を行い、健康づくり支援店増加の働きかけを継続していく必要がある。 ・また、県食育計画において、平成23年度に目標(店舗数)を達成したことから、平成25年度策定の第2次食育推進計画以降は、「健康づくり支援店の支援内容の拡充(支援内容を2つ以上実施する店の割合)」を掲げており、件数に加え、内容の充実をはかる必要がある。</p>

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-⑩ 身体機能維持支援事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面で運動習慣の確立への働きかけをしていく。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	各ライフステージで行われる健康教育の中で運動習慣を確立させるための働きかけをしていく。				
(目標)	運動習慣のある人を増やす。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	△	△
主な事業実績	<p>・事業を上越市運動普及推進員協議会に委託し、市の健康増進計画をふまえ、広く市民に各年代の体の特徴に合った運動習慣につながるよう支援を行った。</p> <p><平成28年度> 委託事業 144回 7,917人 自主活動 577回 7,895人 <平成29年度 (H29.11月末まで報告分)> 委託事業 188回 6,217人 自主活動 152回 3,202人</p> <p>・健診時間診項目で運動頻度が「ほとんど毎日」または「週3回程度」と答えた人の割合 <平成28年度> 64歳以下：29.3% 65歳以上：46.2% <平成29年度 (H29.11月現在)> 64歳以下：29.6% 65歳以上：45.9%</p>	<p>・事業を上越市運動普及推進員協議会に委託し、市の健康増進計画改定版をふまえ、広く市民に各年代の体の特徴に合った運動習慣につながるよう支援を行った。</p> <p><平成29年度> 委託事業 129回 7,917人 自主活動 532回 4,159人 <平成30年度 (H30.10月報告分)> 委託事業 69回 2,665人 自主活動 345回 4,785人</p> <p>・健診時間診項目で運動頻度が「週3回以上」と答えた人の割合 <平成29年度> 20歳～64歳：29.5% 65歳以上：46.0%</p> <p>・健診時間診項目で「30分以上の運動を週2日以上、1年以上実施している」人の割合 <平成30年度 (H30.12月末現在)> 20歳～64歳：20.7% 65歳以上：35.0%</p> <p>※平成30年度から「標準的な健診・保健指導プログラム (H30)」の運動に関する問診項目と同様とする。</p>
今後の課題・反省点	<p>・運動習慣のある人が減少していることから、特に運動習慣の少ない働き盛り世代に運動習慣の普及・啓発を行っていく必要がある。</p>	<p>・運動習慣のある人が減少していることから、特に運動習慣の少ない働き盛り世代に運動習慣の普及・啓発を行っていく必要がある。</p>

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(2)-① 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	メタボリックシンドロームとなることにより引き起こされる可能性が高まる様々な病気やその原因と予防、改善についての啓発を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	健診結果説明会や健康講座等でメタボリックシンドロームの予防・改善を啓発していく。				
(目標)	メタボリックシンドロームに係る健診項目を改善させる。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<p>・健診結果説明会、生活習慣病予防講座でメタボリックシンドロームのメカニズムについて説明し、予防や改善についての啓発を行った。</p> <p><H28年度の健診結果が改善した人の割合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高血圧Ⅱ度以上者 (52.1%) ・HbA1c6.5%以上者 (27.7%) ・LDLコレステロール140mg/dl以上者 (43.0%) <p><特定保健指導実施率></p> <ul style="list-style-type: none"> ・H27年度 (60.5%) H28年度 (66.7%) 	<p>・健診結果説明会、生活習慣病予防講座でメタボリックシンドロームのメカニズムについて説明し、予防や改善についての啓発を行った。</p> <p><健診結果が改善した人の割合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高血圧Ⅱ度以上者 H29年度 50.3%→H30年12月末 55.0% ・HbA1c6.5%以上者 H29年度 29.4%→H30年12月末 41.1% ・LDLコレステロール140mg/dl以上者 H29年度 52.2%→H30年12月末 45.9% <p><特定保健指導実施率></p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28年度 66.7% H29年度 64.4%
今後の課題・反省点	<p>・健診継続受診者のうち、保健指導を受けている人のほうが健診結果の改善率が高いことから、今後も健診の受診勧奨とともに、健診結果説明会や健康講座等への参加を促していく。</p>	<p>・基準値以上の検査数値の改善割合は4割を超えているため、今後も健診の受診勧奨とともに、健診結果説明会や健康講座等への参加を促していく。</p>

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(2)-② 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	肥満により引き起こされる可能性が高まる様々な病気やその原因と予防、改善についての啓発を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	結果説明会や健康講座等で肥満の予防・改善を啓発していく。				
(目標)	適正体重を維持している人を増やす。 男性75%以上 女性85%以上				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	△	△
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会や生活習慣病予防講座等で、1日の食品の基準量の展示を行い、基準量以上の飲食や摂取する食品の種類に偏りがなかなど食生活を振り返り、肥満の予防・改善についての啓発を行った。 <適正体重を維持している人の割合> ・20歳代～60歳代の男性 平成28年度72.9%→平成29年12月末72.5% ・20歳代～60歳代の女性 平成28年度83.3%→平成29年12月末82.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会や生活習慣病予防講座等で、1日の食品の基準量の展示を行い、基準量以上の飲食や摂取する食品の種類に偏りがなかなど食生活を振り返り、肥満の予防・改善についての啓発を行った。 <適正体重を維持している人の割合> ・20歳代～60歳代の男性 平成29年度 72.0%→平成30年12月末 71.5% ・20歳代～60歳代の女性 平成29年度 81.8%→平成30年12月末 77.8%
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、男性の肥満の割合が増えている。 ・食品の基準量の展示を行うことで、自ら食生活を振り返り、具体的な食習慣の改善に結びつくことから、今後も継続した取組が必要である。 ・肥満者の中には、食事以外の嗜好品の摂取状況にも課題があることから、お菓子や清涼飲料水、酒類などの嗜好品等についても具体的なエネルギー量、糖質、脂質、純アルコール量などの成分表示を行い、本人の気づきを促すとともに食習慣の改善に結びつくよう支援していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、男性の肥満の割合が増えている。 ・食品の基準量の展示を行うことが、自ら食生活を振り返り、具体的な食習慣の改善に結びつくことから、今後も継続した取組が必要である。 ・肥満者の中には、食事以外の嗜好品の摂取状況にも課題があることから、お菓子や清涼飲料水、酒類などの嗜好品等についても具体的なエネルギー量、糖質、脂質、純アルコール量などの成分表示を行い、本人の気づきを促すとともに食習慣の改善に結びつくよう支援していく必要がある。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(2)-③ 生活習慣病予防事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	健診結果から対象者を設定し、各種教室を開催することにより、生活習慣病予防の普及・啓発を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	各種教室を開催し、生活習慣病の予防の普及・啓発を行う。				
(目標)	生活習慣病の予防や改善のために普段から適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している人を増やす。 63%以上	65%以上	68%以上	70%以上	72%以上

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	△	△
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・動脈硬化の危険因子を持つ特定保健指導該当者等に、糖負荷検査、頸動脈エコー・尿中アルブミン検査を各5コース（1コース2回）実施。妊婦健診結果から将来の血管や臓器の障害を予防するために、おかあさんのための生活習慣病予防セミナーを3コース（1コース1回）実施した。 ・生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合：56.5%（食育市民アンケート結果） 	<ul style="list-style-type: none"> ・動脈硬化の危険因子を持つ特定保健指導該当者等に、糖負荷検査を7コース（1コース2回）、頸動脈エコー・尿中アルブミン検査を5コース（1コース2回）実施予定。H30年12月末現在83人の参加があった。 ・妊婦健診結果から将来の血管や臓器の障害を予防するために、おかあさんのための生活習慣病予防セミナーを4コース（1コース1回）実施予定。H30年12月末現在12人の参加があった。 ・生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合 食育市民アンケート結果：55.5%
今後の課題・反省点	生活習慣病予防講座に参加した人は、継続健診受診率が高く、動脈硬化の危険因子（血圧、HbA1c、LDLコレステロール等）の維持、改善にも効果が出ることから、今後も一人でも多くの人に講座に参加してもらえるよう周知の徹底と集団指導だけでなく個別指導も含めた継続した取組が必要。	生活習慣病予防講座に参加した人は、動脈硬化の危険因子（血圧、HbA1c、LDLコレステロール等）の維持、改善にも効果が出ることから、今後も一人でも多くの人に講座に参加してもらえるよう周知の徹底と集団指導だけでなく個別指導も含めた継続した取組が必要。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-①-① 家庭菜園での栽培体験等の推進
事業担当課	農村振興課
取組の概要	家庭菜園での作物栽培体験や男女年齢問わず誰もが家庭で料理することを推奨し、食物に愛着を持ち、生産や調理の苦労や楽しさを感じられるよう啓発する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	イベント参加者等に対し野菜の種を配布するほか、家庭で料理することについてホームページ等で啓発する。				
(目標)	家庭で料理や栽培体験をしている人を増やす。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	△
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・食育広告入り野菜の種をイベントで配布し、栽培体験のきっかけを提供した。(上越市環境フェア、食育フォーラム) ※家庭菜園などの作物栽培をしている人の割合：40.3% (食育市民アンケート結果) ・広報上越等で貸付農園オーナーを募集。 ・上越市市民農園契約者数(県外居住者含む) 大島ふるさと農園：24人(H28年度：28人) 牧ふれあい農園：7人(H28年度：6人) 三和ふれあい農園：21人(H28年度：17人) 1人増 ・家庭で料理する一助とするため、料理レシピサイト「クックパッド」に上越市の公式ページを開設し、上越市の郷土料理レシピを掲載。 ※家庭で料理をしている人の割合：68.7% (食育市民アンケート結果) 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育広告入り野菜の種をイベントで配布し、栽培体験のきっかけを提供した。(上越市環境フェア、食育フォーラム) ・市民農園を運営し、作物を作るきっかけを提供した。 上越市市民農園契約者数(県外居住者含む) 大島ふるさと農園 23人 牧ふれあい農園 5人 三和ふれあい農園 17人 合計 45人(前年度比7人減) ※家庭菜園などの作物栽培をしている人の割合 食育市民アンケート結果：38.7% (前年比 1.6ポイント減) ・料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに郷土料理や旬の地場食材を使用した料理レシピを掲載し、家庭で料理をする一助とした。 ※家庭で料理をしている人の割合 食育市民アンケート結果：66.2% (前年度比 2.5ポイント減)
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も家庭菜園での栽培体験を通して、食物に愛着を持ち、生産や調理の苦労や楽しさを感じられるよう啓発を続ける。 ・11月の食育フォーラムで野菜の種を配布したが、冬季では発芽しにくいので、発芽の条件がよい時期のイベントでも配布していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・料理や栽培体験をしている人の割合が減少していることから、食に関する体験活動として、料理や栽培体験の楽しさを市ホームページ「上越の食育」や事業を通じて伝える。 ・引き続き、料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに上越市の郷土料理や旬の地場食材を使用したレシピを掲載し、家庭で料理をする一助とする。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-①-② 食に関するイベント等の実施
事業担当課	農村振興課
取組の概要	親子で参加できるイベント等の事業を通して、食育により子どもが健やかに育つための家庭環境づくりを支援する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	食育フォーラムや親子で参加できる料理教室など、食に関する親子対象の事業を実施する。				
(目標)	食を通じた親子のふれあいの機会を創出する。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・9月30日(土)米粉で作るどら焼き作り体験会 高田公園オーレンプラザのオープンに併せ、上越の食を育む会の協力を得て実施。親子合わせて200人が参加。同時に食育啓発のパネル展示を行った。 ・11月18日(土)食育フォーラムin上越 親子で楽しみながら食について学ぶ内容。食育ドキュメンタリー映画上映、健康講演会、食育クイズラリー、料理体験等を実施。1,514人が参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月20日(月)親子食農体験 「上越野菜」振興協議会の主催事業。上越野菜の上越丸えんぴつなすとひとくちまくわの収穫、収穫物を使用した料理教室を開催した。親子12組26人が参加。 ・11月17日(土)食育フォーラムin上越 公認スポーツ栄養士による食育講演会のほか、食育クイズや体験、食育活動の展示等を通じ、親子が楽しみながら食について学んだ。1,690人が来場。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、食育フォーラムがイベントの中心となっているが、フォーラム以外にも、食に関わる団体の協力を得ながら、親子を対象とした食に関する事業推進を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、親子で参加できる食に関する事業を実施する。 ・市が行う親子で参加できる食に関する事業の情報を市ホームページ「上越の食育」に掲載し、市民に情報提供する。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-①-③ 食生活の改善に必要な情報提供
事業担当課	農村振興課・関係課
取組の概要	国が作成している「食育ガイド」を利用し、食育に関する基礎知識や、日常的な生活の中で一人ひとりが「何を意識して」「どのように食べるべきか」をわかりやすく市民に周知する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	国が示している「食育ガイド」を定期的に学校関係者や食育イベント、健康指導などの食に関連した集会等で配布し啓発する。				
(目標)	市民が食生活の改善に必要な情報を得られる状態にする。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ■「食育ガイド」の配布 ・食育活動に役立ててもらうため、6月の食育月間に併せ、市内の幼稚園、保育園、小中学校に配布。 ・上越市環境フェアで配布。 ・食育フォーラムで配布。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育活動に役立ててもらうため、6月の食育月間に併せ、国が示す「食育ガイド」を市内の幼稚園、保育園、小中学校に配布した。 ・上越市環境フェア、食育フォーラムにおいて、該当ブースに配置し、周知を行った。
今後の課題 ・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も食育月間や関連イベントといった時期を捉え、第3次上越市食育推進計画と併せ、継続して内容の紹介や配布を通して、食育の啓発活動を行っていく。 ・配布だけでなく、より効果的な食育への理解促進につなげる方法を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「食育ガイド」は、食育活動の実践につながる具体的な取組事例が掲載されている。今年度は、配布のみとなったため、次年度以降は第3次上越市食育推進計画と併せ、各種食育活動の場で使用してもらい、活用を図る。 ・市ホームページ「上越の食育」の内容を充実させ、食生活の改善に必要な情報を提供する。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-①-④ 家庭での共食についての啓発活動
事業担当課	農村振興課
取組の概要	家族での共食が、大切なコミュニケーションの場や、箸使いなど食事作法やしつけの重要な場であることを啓発する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	市ホームページやイベントにおいて、家族揃って食事をとることの有益性を啓発する。				
(目標)	市民が家族と共食する回数を週平均11回以上にする。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	△	△
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ「上越の食育」において、食を通じたコミュニケーションの大切さについて啓発を行った。 ・家族との共食の記述がある国が示す「食育ガイド」を上越市環境フェア、食育フォーラムで配布し、啓発を行った。 ・朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 食育市民アンケート結果：平均10回 	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ「上越の食育」において、食を通じたコミュニケーションの大切さについて啓発を行った。 ・朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 食育市民アンケート結果：平均9回
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が家族と共食する回数は、目標値の平均11回に達しなかった。 ・市ホームページの記載は、「上越の食育」のトップページにあるが、分かりづらいため、目を引く記載方法を検討する。 ・イベント等での啓発は、配布物での啓発にとどまっていたことから、掲示物の作成等、積極的な啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が家族と共食する回数は、食育市民アンケート結果から、目標値の平均11回に達しなかった。 ・「家庭での共食」に特化した周知が不足していた。共食の有益性を伝えながら継続的に啓発を行う。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-②-① 保育園・幼稚園・小中学校での食の体験活動
事業担当課	学校教育課・保育課
取組の概要	食に関する様々な体験活動を通して、食に対する興味・関心を持たせる。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。				
(目標)	全ての保育園、幼稚園、小中学校で体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての小学校において、教科や総合的な学習と関連付けた栽培活動や農業体験を実施した。 保護者や生産者などと一緒に地域の特色を生かした食に関する活動に取り組んだ。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育園では、畑やプランターでの野菜づくりを行った。また、それらの食材を使ったクッキングなどの体験を通じて、子ども達の食への関心を高めることができた。 	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての小学校において、教科や総合的な学習と関連付けた栽培活動や農業体験を実施した。 保護者や生産者などと一緒に地域の特色を生かした食に関する活動に取り組んだ。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育園では、畑やプランターでの野菜づくりを行った。また、それらの食材を使ったクッキングなどの体験を通じて、子ども達の食への関心を高めることができた。
今後の課題・反省点	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も地域の特色を生かした活動を継続していく。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、保育園では体験活動を取り入れた食に関する活動を継続していく。 	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も地域の特色を生かした活動を継続していく。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、保育園では体験活動を取り入れた食に関する活動を継続していく。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-②-② 家庭や地域とともに進める食に関する教育活動
事業担当課	学校教育課
取組の概要	家庭・地域と連携を図り、児童・生徒が自ら食育を実践できるよう教育活動を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	全ての小中学校で地域の方等を招待した給食試食会や食に関する学校保健委員会を実施する。				
(目標)	児童生徒が栄養バランスのとれた食事や正しい食事マナーの重要性について理解を深める。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・給食試食会や食をテーマにした学校保健委員会を実施し、家庭との連携を図った。 ・学校保健委員会において協議した内容を「たより」として地域や家庭に発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食試食会や食をテーマにした学校保健委員会を実施し、家庭・地域との連携を図った。 ・学校保健委員会において協議した内容を「たより」として地域や家庭に発信した。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する興味関心を持たせるとともに、食の重要性について理解を深められるよう、地域、家庭との連携を深め、協力体制をつくっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する興味関心を持たせるとともに、食の重要性について理解を深められるよう、地域、家庭との連携を深め、協力体制をつくっていく。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-②-③ 特色ある食に関する教育活動の推進
事業担当課	学校教育課
取組の概要	それぞれの地域や学校の伝統や文化等の特色をいかした食育推進を支援する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	充実した食育活動を推進するための情報提供等を行う。				
(目標)	地域や学校の伝統や文化等の特色をいかした食育を実践している学校を増加させる。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	・小学校において、地元の野菜生産者を招いて、野菜の苗を植えたり、地元の食材を使用して郷土料理をつくるなどの体験活動を実施した。	・小学校において、地元の野菜生産者を招いて、野菜の苗を植えたり、地元の食材を使用して郷土料理をつくるなどの体験活動を実施した。
今後の課題・反省点	・栽培や調理など、学校や地域の実態に合わせた食の体験活動を推進していく。	・学校や地域の実態に合わせた食の体験活動を継続していく。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-③-① 保健指導事業 食生活改善事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	各ライフステージの様々な事業でバランスのとれた食生活の推進(食品の基準量の普及・啓発)を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	各ライフステージで行われる健康教育の中でバランスのとれた食事摂ることの必要性についての内容を盛り込み啓発をしていく。				
(目標)	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を毎日実践している人を増やす。 全世代 40% 若い世代 35%	全世代 50% 若い世代 40%	全世代 60% 若い世代 45%	全世代 70% 若い世代 50%	全世代 80% 若い世代 55%

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	△	△
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期(すくすく赤ちゃんセミナー)、乳幼児期(各乳幼児健診、相談会)、学童期(小中学校血液検査事業、学校保健員会等)、思春期(高校健康教育)、成人期・高齢期(健診時、健診結果説明会、企業での健康教育、地区健康講座等)において、各ライフステージの特性を踏まえ、バランスのとれた食事をとることの必要性について健康教育を実施した。 ・健康教育等で、具体的に何をどれだけ摂取すればよいかを理解できるように、1日の食品の基準量を展示した。 ・主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合 食育市民アンケート結果 全世代：36.6% 若い世代：31.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期(すくすく赤ちゃんセミナー)、乳幼児期(各乳幼児健診、相談会)、学童期(小中学校血液検査事業、学校保健員会等)、思春期(高校健康教育)、成人期・高齢期(健診時、健診結果説明会、企業での健康教育、地区健康講座等)において、各ライフステージの特性を踏まえ、バランスのとれた食事をとることの必要性について健康教育を実施した。 ・健康教育等で、具体的に何をどれだけ摂取すればよいかを理解できるように、1日の食品の基準量を展示した。 ・主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合 食育市民アンケート結果 全世代：38.0% 若い世代：31.2%
今後の課題・反省点	・若い世代から食生活の乱れが見られており、引き続き、各ライフステージにおいて様々な場面での健康教育の実施が必要。	・若い世代から食生活の乱れが見られており、引き続き、各ライフステージにおいて様々な場面での健康教育の実施が必要。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-③-② 日本型食生活の普及活動
事業担当課	農村振興課・関係課
取組の概要	米を中心に多様な農林水産物を食材とした副食で構成され、栄養バランスに優れた「日本型食生活」を促進するため、有効な啓発資材を作成し配布するとともに、様々な媒体を活用してその普及を図る。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	啓発用クリアファイルの作成・配布やイベントやホームページでの周知により、日本型食生活の利点について啓発する。				
(目標)	日本型食生活を実践している人を増やす。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	△
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・日本型食生活の実例を掲載した啓発用クリアファイルを作成し、家庭科の授業が始まる小学5年生及び食育フォーラムで配布した。また、希望のあった団体、組織への配布も行った。 ・市ホームページでの周知を行った。 ・日本型食生活を実践している人の割合 食育市民アンケート結果：79.7% 	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ及び食育フォーラムにおいて啓発を行った。特に食育フォーラムでは、食育講演会や北陸農政局の展示ブースにおいて、栄養バランスに優れた日本型食生活の良さを紹介した。 ・日本型食生活を実践している人の割合 食育市民アンケート結果：77.7% (前年度比 2ポイント減)
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発用クリアファイルについて、日本型食生活の内容が小学生でも一目で分かるよう、地元で採れる食材や調理例を挙げ作成した。 ・今後も市ホームページやイベント等で市民が取組めるよう、分かりやすい内容で啓発を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育市民アンケートの結果から、目標を達成することができなかった。 ・日本型食生活の推進に特化した周知が不足していたことから、市ホームページ「上越の食育」や事業を通じ、日本型食生活の有益性を伝え、啓発を継続していく。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-③-③ 国が定める「食育月間」、「食育の日」の普及活動
事業担当課	農村振興課
取組の概要	国が定めている「食育月間」(6月)、「食育の日」(19日)を市民に周知し啓発に努める。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	広報やFM放送、イベントやホームページを活用し、「食育月間」、「食育の日」の普及啓発を行う。				
(目標)	「食育月間」、「食育の日」を知っている人を増やす。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	△
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・6月の食育月間に併せ、広報上越、FM上越、有線放送にて啓発を行った。また、上越市環境フェア、食育フォーラムにおいて、のぼり旗を使用し啓発を行った。 ・「食育月間「食育の日」を記載した食育啓発用クリアファイルを4,000部作成し、市内の小学5年生及びイベント時に配布しPRした。 ・市ホームページ「上越の食育」での啓発。 ・学校給食の献立では、毎月19日を目安に「食育の日献立」を提供している。また、6月の給食日よりでは、「食育月間」のPRを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■6月の食育月間 <ul style="list-style-type: none"> ・啓発用のぼり旗を市役所1階ロビー及び農村振興課フロアに掲示したほか、広報上越、FM上越にて啓発を行った。 ・市職員向け掲示板に、食育月間、食育の日の周知と食生活指針に沿った取組の推進について掲載し周知を図った。 ・上越教育大学の学生食堂に、上越市の食育推進の取組紹介パネルを展示した。 ・「食育月間、食育の日」を記載した食育啓発用クリアファイルを4,000部作成し、市内の小学5年生及びイベント時に配布しPRした。 ■毎月19日の食育の日 <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食において、毎月19日を目安に「食育の日献立」を提供し、食を考える機会とした。 ・公立保育園では、毎月19日を目安に食育集会を実施し、食を考える機会とした。 <p>※食育月間、食育の日を知っている人の割合 食育市民アンケート結果：22.1%</p>
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・6月には、食育月間のPRをすることができたが、毎月19日の食育の日のPRは、食育月間のPRに比べると、少なくなるため、年間を通したPRが必要である。 ・平成29年度において、「食育月間」「食育の日」を知っている人の数値を把握できなかった。次年度以降、食育市民アンケートで数値を把握し、目標達成の判断根拠とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育市民アンケートの結果から「食育月間、食育の日」を知っている人の割合が低かった。食育月間と食育の日は、食育を考える機会であるため、引き続き周知が必要である。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-③-④ 地域での共食についての情報提供
事業担当課	農村振興課
取組の概要	地域等で子どもから高齢者まで様々な人たちと食事をする機会を増やすため、地域での共食についての情報を提供する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	市ホームページにおいて、地域で行われている共食の情報が分かるよう掲載する。				
(目標)	地域等で共食したいと思う人が共食する割合を70%以上にする。	地域等で共食したいと思う人が共食する割合を71%以上にする。	地域等で共食したいと思う人が共食する割合を72%以上にする。	地域等で共食したいと思う人が共食する割合を73%以上にする。	地域等で共食したいと思う人が共食する割合を75%以上にする。

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	△	△
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 市ホームページにおいて、地域での共食について情報提供を行った。(高齢者支援課 地域支え合い事業) 食育フォーラムにおいて、こども食堂(いちょう食堂)の活動紹介を行った。 地域等で共食したいと思う人が共食する割合 食育市民アンケート結果: 69.1% 	<ul style="list-style-type: none"> 地域支え合い事業(高齢者支援課)の情報を市ホームページに掲載した。(高齢者の憩い及び交流の場として地域支え合い事業を実施しており、13区の一部の会場では昼食を提供し、共食となっている。) 地域等で共食したいと思う人が共食する割合 食育市民アンケート結果: 65.7%
今後の課題 ・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> 地域で共食したいと思う人が共食する割合は、前年度から上昇したものの、目標値に達しなかった。(H28年度: 68.9%) 市社会福祉協議会ではフードバンク、フードドライブの取り組みを検討している。集まった食料の提供の場として、市関係課と連携し、それらを活かした地域の共食の場の設置なども検討もしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育市民アンケート結果から、目標を達成することができなかった。 市が行う地域での共食の場の情報を、市ホームページ「上越の食育」からも閲覧できるよう改善する。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(4)-① 郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施
事業担当課	社会教育課
取組の概要	地域資源の活用や地域住民のニーズの精査を行いながら、地区公民館において料理教室や食をテーマとする体験講座を実施する。 社会教育事業で実施する食に関する講座の紹介を通じて郷土料理や食文化の周知を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	地区公民館で、郷土料理や食文化をテーマとする講座を実施する。				
(目標)	郷土料理や食文化について理解を深め、その継承や実践について興味・関心を持った参加者の割合を80%以上とする。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<p>金谷地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリカリ梅づくり 1回 ・押し寿司づくり(青少年対象) 1回 <p>直江津地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食文化を学ぶ講座 全3回 <p>八千浦地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩麴を使った減塩料理教室 3回 <p>牧地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統料理講座 1回 <p>板倉地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越野菜を用いた食育講座 1回 <p>大島地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理教室 1回 <p>郷土料理や食文化について理解を深め、その継承や実践について興味・関心を持った参加者の割合 講座アンケート結果：86.7%</p>	<p>高田地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜とハスを使ったクッキング教室 4回 <p>金谷地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリカリ梅と梅ジャムづくり 1回 <p>和田地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「発酵の町 上越」味噌作り講座 3回 <p>三郷地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「発酵のまち上越」を学ぼう 2回 <p>八千浦地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越野菜で郷土料理教室 3回 <p>柿崎地区公民館黒川分館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きのこ学習会 1回 <p>郷土料理や食文化について理解を深め、その継承や実践について興味・関心を持った参加者の割合 講座アンケート結果：88.4%</p>
今後の課題・反省点	<p>・各地区公民館で実施する料理教室は年々、参加者が減少している傾向にあることから、要望のある料理を取り入れつつ、上越の食文化を継承するための活動を取り入れていく必要がある。</p>	<p>・料理教室は男性の参加者が少なく、男性を対象とした講座を企画しても参加者が集まらず開催できないことがあった。様々な方から参加してもらうために開催日時や内容等について検討する必要がある。</p>

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(4)-① 謙信KIDSプロジェクト
事業担当課	社会教育課
取組の概要	小学生にふるさと上越の魅力ある食材を紹介し、郷土料理に関する体験をさせることを通して、学ぶ意欲やふるさとを愛する心を育成する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	謙信KIDSプロジェクトの23講座28コースのうち、上越の食をテーマにした講座を3講座実施する。	謙信KIDSプロジェクトで実施する講座に、上越の食をテーマとする講座を設ける。			
(目標)	講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合を90%以上とする。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「しよく」の講座(小学校1~3年対象)は、3回実施し、延べ53人が参加し、上越野菜であるひとくちまくわや枝豆の収穫体験を行ったほか、ばなな南瓜やカリフラワーを使った料理体験を行った。 ・「そば」の講座(小学校1~3年対象)は、3回実施し、延べ50人が参加し、上越特産品種であるとよむすめの種まきから刈り取りまでを体験し、自分でそば打ちを行って味わった。 ・「食」の講座(小学校4~6年対象)は、3回実施し、延べ53人が参加し、発酵について学び、みその仕込み、あま酒を使った料理体験、仕込んだみそを使った料理体験を行った。 講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合 講座アンケート結果：98% 	<ul style="list-style-type: none"> ・「しよく」の講座(小学校1~3年対象)は3回実施し、1・2回は上越野菜(ひとくちまくわ、えんぴつなす、枝豆等)の生育観察、収穫作業を行った。3回目は収穫した上越野菜を使って調理実習を行った。延べ36人が参加した。 ・「そば」の講座(小学校1~3年対象)は、延べ52人の参加により昨年と同内容で実施した。鎌の使い方の安全対策を丁寧に指導し、昨年の課題解決を図った。また、「粉ひき」体験を補充し、栽培して収穫された農産物(そばの実)が食品(そば粉)に変化する過程に注目させた。さらに、農研機構北陸研究拠点の研究者へのインタビュー等でビデオを作成し、上越特産のソバが身近な研究施設で開発されたことや作物としてのソバの特徴を楽しみながら理解できるようにした。 ・「食」の講座(小学校4年~6年対象)は3回実施し、上越の食文化「発酵」について学んだ。1回目はみそ作りを体験し、発酵のおもしろ知識を学んだ。2回目は「あま酒」の発酵の秘密を探る、あま酒を使った調理実習を行った。3回目は出来上がった「みそ」を使って調理実習を行った。延べ48人が参加した。 講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合 講座アンケート結果：100%
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・「しよく」の講座、「そば」の講座は、小学校下学年が対象であり、体験活動時の安全管理をしっかりと行っていく必要がある。 ・体験内容や時間設定について、より興味・関心を深めることができるよう改善していく必要がある。 ・3つの講座では、料理体験やそば打ちなどの食品を扱うことから、食中毒などを防ぐため特に衛生面について配慮する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「しよく」、「食」の講座で取り扱っているのは上越市が取り組んでいる食物であり、継続して取り組む。調理実習が伴うので衛生面、安全面に配慮する必要がある。 ・「そば」の講座では、コメとソバを比較する学習で、双方の穀物としての特徴を深く学習できた。資料やビデオの活用で低学年児童も楽しみながら学習でき、食育に対する成果があったが、講座編成の見直しにより、次年度は実施しない予定。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(4)-① 「発酵のまち上越」の啓発活動
事業担当課	上越ものづくり振興センター
取組の概要	「発酵のまち上越」を情報発信するとともに、古くから根付き受け継がれてきた発酵食品文化を次世代へ継承する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)		上越の発酵食品をホームページやイベント等で市内外に広く発信するとともに、発酵食品文化を次世代へ継承する。			
(目標)		上越は「発酵のまち」というイメージを持つ市民を増加させる。			

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況		○
主な事業実績		<p>○上越発酵食品研究会の事務局を担うなど、各種の発酵関連事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやチラシ等で「発酵のまち上越」をPRした。 ・越後・謙信SAKEまつりにおいて、雪むろで熟成させた酒粕や上越産の発酵食品を使用した「雪むろ酒かすラーメン」を販売するとともに、昨年に引き続き、発酵食品のお弁当「サカキン弁当」を販売し、市内外の多くの人に、発酵のまち上越をPRした。 ・食育フォーラムにおいて、みそまる作り体験、醤油味比べ体験を実施した。 ・謙信キッズプロジェクト「食」の体験学習において、みその仕込み体験や、あま酒を使った料理体験等を実施した。 ・城北中学校で発酵食品の講演を行なった。 ・川上善兵衛衛生誕150年記念フォーラムにおいて、上越の発酵食品のPRを行った。 ・国民文化祭・にいがた2019での「妙高・上越エリア」のブースで、発酵文化をPRした。 ・全国発酵食品サミットin NAGANOにおいて、上越の発酵食品を販売するとともに発酵のまち上越のPRを行なった。
今後の課題・反省点		「発酵のまち上越」というイメージが浸透しつつあるが、今後も継続したPR活動が必要。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(4)-② 地場の食品、郷土料理を取り入れた学校給食の推進
事業担当課	教育総務課
取組の概要	給食の献立において、地場の食品、郷土料理等を取り入れるなど、「食」について考える取組みを推進する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	毎月、地場の食品や郷土料理を取り入れた学校給食を提供する。				
(目標)	郷土料理や地場の食品を取り入れた学校給食を通じて、「食」に対する児童生徒の関心を高める。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地場の食品や郷土料理を取り入れた「ふるさと献立」の日を新たに設定し、市内の全公立小中学校(72校)で学校給食を提供した。 ・地場の食材、郷土料理を取り入れた献立名の一例 <ul style="list-style-type: none"> 4月 のっぺい汁、ますの甘酒みそ焼き 5月 車ふのあげに、ぜんまいの炒め煮、おぼろ汁 6月 めぎすのこめご揚げ、姫竹汁 7月 越の丸なすとトマトのミートソース、めぎすのつみれと夕顔のみそ汁 9月 煮なます、なますかぼちゃの炒めもの 10月 秋ののっぺい汁、さばのピリ辛みそ焼き、なますかぼちゃのごまサラダ 11月 めぎすのびりから揚げ、めぎすのつみれ汁 12月 酒かす入りみそ汁、鶏肉の塩こうじ焼き 1月 さめのごまケチャップソースかけ、煮なます、スキー汁 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は「ふるさと上越の輝く先人たち～食を通じて郷土の偉人について学ぼう～」をテーマにした食育の日の取組みと、地場の食品や郷土料理を取り入れた「ふるさと献立」と合わせて実施し、市内の全公立小中学校(72校)で学校給食を提供した。 ・地場の食材、食育の日の取組みと合わせ郷土料理を取り入れた献立名の一例 <ul style="list-style-type: none"> 4月 いかの塩こうじやき、おぼりの花のっぺい汁 5月 きんのわのあげに、めぎすのケチャップソースがけ 6月 あじのいちじくソースがけ、なつのっぺ 7月 シャークカツ 9月 ハンバーグ赤ワインソース 10月 いわのはらワインのビーフカレー、鶏肉の赤ワイン焼き、なますかぼちゃの炒めもの 11月 鮭の酒かす焼き、酒かす入りみそ汁 12月 おぼろ汁、とりにくのあまざけみそやき 1月 くるまふのあげに、のっぺい汁
今後の課題・反省点	・「ふるさと献立」により郷土料理や地場の食材による給食提供を引続き行い、「食」に対する児童生徒の関心を高める。	・「ふるさと献立」による郷土料理を取り入れた学校給食の実施と地場産の食材による給食提供を引続き行い、「食」について考える取組みを推進する。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(4)-③ 地産地消推進の店認定事業
事業担当課	農村振興課
取組の概要	飲食店や小売店に地域食材を積極的に活用するよう働きかけるとともに、一定基準以上の地域食材を積極的に活用する店舗に対して認証を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	認定事業の周知とともに加入促進を図る。				
(目標)	認定店数を155軒以上にする。	認定店数を160軒以上にする。	認定店数を165軒以上にする。	認定店数を170軒以上にする。	

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・推進店の募集、認定を実施し、平成30年1月現在における店舗数は156店舗。 ・上越の食材と発酵食品にスポットを当てた「地産地消推進の店キャンペーン」を実施し、推進店の周知と利用促進を図った。(参加店舗：20店舗、応募者数：746人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進店の募集、認定により、店舗数は162店舗となった。 ・地産地消推進の店が勧める上越食材を使用した料理や商品を対象とした「地産地消推進キャンペーン」を実施し、地産地消の推進と推進店の周知と利用促進を図った。(参加店舗：32店舗、キャンペーン応募者数：1,301人)
今後の課題 ・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・年度中に閉店などに伴う辞退があったが、それを上回る申請があり、推進店を増やすことができた。 ・飲食店に地産地消の意識が浸透してきたと考えられるが、「認定店のメリットが感じられない」との意見もあることから、「地産地消推進の店キャンペーン」の実施方法を再検討するなど、認定店の利用拡大を図るほか、地産地消の重要性をPRし、申請が増えるよう働きかけを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域食材を使用している店舗に働きかけたことで、目標を達成することができた。 ・地産地消推進キャンペーン応募者のアンケート結果から、市民の地産地消への関心が高いことが分かった。引き続き、市内の小売店及び飲食店等に地産地消の理解を深めてもらい、認定店数の増加を図る。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(5)-① 食育推進関連団体との連携強化
事業担当課	農村振興課・関係課
取組の概要	食育推進関連団体と情報交換や交流を行い連携を強化するとともに、団体間の連携を推進する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	食育推進関連団体による活動を推進し、食育活動の情報収集並びに情報提供を行う。				
(目標)	食育推進ネットワークの会員数を70団体以上とする。	食育推進ネットワークの会員数を80団体以上とする。	食育推進ネットワークの会員数を90団体以上とする。	食育推進ネットワークの会員数を95団体以上とする。	食育推進ネットワークの会員数を100団体以上とする。

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	△	△
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・食育推進関連団体である「上越の食を育む会（上越食育推進協議会）」の活動の側面支援を行った。（食育研修交流会の運営協力、料理教室の広報協力等） ・食育フォーラムの協働運営により、団体間の連携が図られた。 ・上越の食を育む会登録会員数 65（H29.12月末現在） （企業：30社、団体・学校：22団体、行政：4団体、個人：9人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育推進関連団体である「上越の食を育む会（上越食育推進協議会）」の活動の側面支援を行った。（食育研修交流会の運営協力、料理教室の広報協力等） ・食育フォーラムの協働運営により、団体間の連携と情報共有が図られた。 ・上越の食を育む会登録会員数 65（H30.12月末現在） （企業：30社、団体・学校：22団体、行政：4団体、個人：9人）
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値である食育ネットワーク会員数を70団体以上とすることができなかった。 ・食育推進関連団体の活動を周知し、市内の食育に関係する組織、団体に連携の協力を呼びかけていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値である食育ネットワーク会員数を80団体以上とすることができなかった。 ・食育推進関連団体の活動を周知し、ネットワークに参加していない市内の食育に関係する組織、団体に連携の協力を呼びかけていく必要がある。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(5)-② 健康づくり推進協議会の開催
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	医療機関や関係機関と連携し、健康や医療の最新の状況について情報交換、意識の共有を図り、食育推進施策にいかす。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	健康づくり推進協議会を年2回開催する。				
(目標)	医療機関や大学等との情報交換から得た知見を、食育関係施策に活用する。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、平成25年に策定した上越市健康増進計画の中間評価年であり、改定版の策定が必要なことから健康づくり推進協議会を5回開催した。 ・協議会の中では、中間評価年度における現状・課題を明確に示し、今後の方向性を協議した。 ・平成30年3月には「上越市健康増進計画改訂版」として策定し、今後の健康づくりの指針として、食育推進施策に活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり推進協議会を年2回開催し、市の健康課題や健康づくり活動等から得られた食生活を含む生活習慣の実態、医療費分析等について、医療機関や大学等関係機関と情報の共有及び今後の活動の方向性について協議を行った。 ・平成30年3月に策定した「上越市健康増進計画改定版」を今後も健康づくりの指針として、食育推進施策に活用していく。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市における健康や医療の状況について情報交換、意識の共有を図り、その中から得た知見を食育関係施策においても活用できるよう、継続して開催していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、医療機関や大学等関係機関と市の健康実態や医療の状況について情報交換、意識の共有を図り、その中から得た知見を食育関係施策においても活用できるよう開催していく必要がある。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(6)-① 食育に関する積極的な情報提供
事業担当課	農村振興課・関係課
取組の概要	ホームページ「上越の食育」や広報上越、メディア等を活用し、市内で行われている食育活動や食育イベント、食育に関する啓発事項等を積極的にPRする。また推進計画概要版の作成・配布などにより食育の普及、啓発に努めるとともに共通理解の促進を図る。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	市のホームページへ食育情報の定期的な掲載を行うとともに、推進計画概要版を事業等で配布する。				
(目標)	市民が食育に関する必要な情報を得られる状態にする。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ■市ホームページ「上越の食育」へ下記内容を掲載。 <ul style="list-style-type: none"> ・第3次上越市食育推進計画概要版 ・食品ロス削減啓発 ・平成29年度の地産地消推進の店一覧 ・平成29年度食育ポスターコンクール受賞作品 ・小中学校給食献立表、給食だより（月1回） ・市立保育園での食育活動紹介（月1回） ・郷土・伝統料理、行事食ページの見直し →「クックパッド」上越市の公式ページにリンク ■第3次上越市食育推進計画概要版の作成と配布 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年10月完成 ・市内保育園、幼稚園、小中学校、区総合事務所、市食育関係課、市議会議員に配布 ・その他、食育フォーラムで配布 ・必要に応じ随時配布 	<ul style="list-style-type: none"> ■市ホームページ「上越の食育」へ下記内容を新たに掲載した。 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の地産地消推進の店一覧 ・平成30年度家族の食育レシピコンテスト受賞レシピの紹介 ・各種食育推進事業報告 ・小中学校給食献立表、給食だより（月1回） ・市立保育園での食育活動紹介（年4回） ■料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに下記内容を新たに掲載した。 <ul style="list-style-type: none"> ・旬の地域食材を使用したレシピの掲載 ・各種食育推進事業の告知 ■第3次上越市食育推進計画概要版の配布 <ul style="list-style-type: none"> ・食育月間に市内保育園、幼稚園、小中学校に配布 ・上越市環境フェア、食育フォーラムで配布
今後の課題 ・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、市ホームページを活用し、食育に必要な情報発信を行っていくとともに、市ホームページ「上越の食育」のPR、市民が利用したいと思う情報を提供していく必要がある。 ・今年度、料理レシピサイト「クックパッド」に上越市の公式ページを開設したことから、このサイトを活用し、全国に向けて発信できる情報も掲載していく。 ・第3次上越市食育推進計画概要版について、市内の食育関係団体や市民から活用してもらうため、より一層の周知と活用の働きかけの方法を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ「上越の食育」を活用し、市民が利用しやすい食育情報を発信していく。 ・市ホームページ「上越の食育」のほか、料理レシピサイト「クックパッド」を利用し、広い世代及び地域に向けた情報発信を行う。 ・第3次上越市食育推進計画概要版については、イベント時等の配布に留まった。今後は、市事業のほか、連携する団体等の事業などあらゆる機会を捉え、啓発に使用する。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(6)-① 給食だよりの発行による情報提供
事業担当課	教育総務課
取組の概要	毎月、給食だよりを発行し、給食の献立のレシピや旬の食材、地域の食材の紹介などを通して「食」への関心や知識を高める。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	毎月、給食だよりを作成し、保護者へ提供するとともに、ホームページへの掲載を行う。				
(目標)	学校でどのような給食が提供されているか等について保護者をはじめとした市民が知れる状態にする。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の保護者に対し、毎月の給食だよりに通じ、給食に関する情報を継続的に提供した。 ・市ホームページへ給食だよりの掲載を行った。 ・14,500人児童生徒の保護者並びに、広く市民へ情報を提供することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の保護者に対し、毎月の給食だよりに通じ、給食に関する情報を継続的に提供した。 ・市ホームページへ給食だよりの掲載を行った。 ・児童生徒14,100人の保護者並びに、広く市民へ情報を提供することができた。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して給食だよりを通じた「学校給食情報」の発信を行っていく。 ・市ホームページで給食だよりの掲載を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して給食だよりを通じた「学校給食情報」の発信を行っていく。 ・市ホームページ「上越の食育」で給食だよりの掲載を行っていく。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(6)-② 食育フォーラムの開催
事業担当課	農村振興課・関係課
取組の概要	食育フォーラムを継続的に開催することで、食育活動に対する市民の理解促進を図るほか、食育推進団体同士の情報交換や連携に役立てる。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	日頃の食育活動の発表の場として食育フォーラムを毎年開催する。				
(目標)	来場者数を1,500人以上にする。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<p>開催日：平成29年11月18日（土） 会 場：上越市市民プラザ 参加者：1,514人 （前年度参加者約1,390人、前年度比+8.9%）</p> <p>内 容： ・食育関連団体等の活動紹介 （17団体、9小中学校の活動内容をパネル展示） ・食育ドキュメンタリー映画上映 「いただきます～みそをつくるこどもたち～」 ・健康講演会「健康の原点は食と腸にあり」 ・クイズや体験による食育学習 ・料理体験、クッキングショー ・上越の美味しいものコーナー （地場産農産物の試食販売 22団体） ・食育ポスターコンクールの表彰式、作品展示 （作品応募数：54） ・杣つき餅、郷土料理「スキー汁」のふるまい等</p>	<p>開催日：平成30年11月17日（土） 会 場：上越市市民プラザ 参加者：1,690人 （前年度参加者1,514人、前年度比+11.6%）</p> <p>内 容： ・食育関連団体等の活動紹介 （31団体、6小中学校の活動内容をパネル展示） ・公認スポーツ栄養士による食育講演会 「公認スポーツ栄養士がアドバイス！朝ごはんでつくる負けない体」 ・健康講演会「健康の原点は食と腸にあり」 ・クイズや体験による食育学習 ・料理体験 ・上越の美味しいものコーナー （地場産農産物の試食販売 17団体） ・家族の食育レシピコンテスト表彰式と応募レシピ展示 （作品応募数：27） ・杣つき餅、郷土料理「スキー汁」のふるまい 等</p>
今後の課題・反省点	<p>・目標値を超えた来場者があり、大変盛況であった。</p> <p>・「上越の食を育む会（上越食育推進協議会）」が中心となった実行委員会による企画運営により、食育ドキュメンタリー映画上映などの新たな取組や、参加団体の広がりがあった。</p> <p>・食育フォーラムの内容は近年固定化してきていることから、更なる集客を目指し、今年度の成果を検証し、次回以降につなげていく必要がある。</p>	<p>・過去最高の来場者があり、目標を達成した。</p> <p>・「上越の食を育む会（上越食育推進協議会）」が中心となった実行委員会による企画運営により、「朝ごはんが始まる元気な一日」をテーマとした、市民が食を考える機会とすることができた。</p> <p>・今回の食育フォーラムの課題を踏まえ、今後の食育啓発事業につなげる。</p>

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(7)-① 食の安全に関する情報発信
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	食の安全に関する国・県からの情報や健康被害情報、新潟県が実施している農林水産物等の放射性物質検査結果などを市のホームページや広報誌を活用して情報提供していく。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	食の安全に関する情報等を市のホームページや広報誌など様々な媒体を使い広く情報提供する。				
(目標)	市民が容易に食の安全に関する情報入手できるようにする。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	・市ホームページや広報上越等、様々な媒体を通じて、食中毒の予防等「食の安全」に関する情報提供を行った。	・市ホームページや広報上越等、様々な媒体を通じて、食中毒の予防等「食の安全」に関する情報提供を行った。
今後の課題・反省点	・今後も適切な時期に適切な情報提供を行い、市民の食に関する不安の解消に努める必要がある。	・今後も継続して、適切な時期に適切な情報提供を行い、市民の食に関する不安の解消に努める必要がある。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(7)-② 農畜産物の表示に関する研修や啓発活動の実施
事業担当課	農政課
取組の概要	安全で安心な農林水産物を自ら選択できる市民の育成を図るため、研修や啓発を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	食品表示の研修会を実施し、食品表示の内容を広く周知する。				
(目標)	食品表示について正しい知識を持った市民を増やす。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 「2017食育フォーラム in 上越」において、食品表示に関するパネルや食品サンプルなどを展示し、市民の意識啓発を図った。 <p>【開催日】 平成29年11月18日(土)</p> <p>【会場】 上越市市民プラザ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「2018食育フォーラム in 上越」において、食品表示に関するパネルや食品サンプルなどを展示し、市民の意識啓発を図った。 <p>【開催日】 平成30年11月17日(土)</p> <p>【会場】 上越市市民プラザ</p>
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> 食品表示を継続する他、消費庁のリーフレットなどを活用し、より多くの市民に啓発できる方法を検討したい。(例：リーフレットの窓口設置や各種イベントでの配布 など) 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、食育啓発事業の場において、食品表示に関するパネル展示を継続し、食品表示について正しい知識を持った市民の増加に努めていく。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(7)-③ 農林水産物等の放射性物質検査の情報発信
事業担当課	農政課・農林水産整備課
取組の概要	消費者の信頼に応えるため、新潟県等が実施する農林水産物等の放射性物質の検査結果を市民に情報提供する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	必要に応じ、広報及びホームページで検査結果を周知する。				
(目標)	情報発信により農林水産物等に関する不安を解消させる。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	・新潟県が実施している農林水産物等の放射性物質検査の結果について、市ホームページで情報提供を行い、市民の不安解消に努めた。	・新潟県が実施している農林水産物等の放射性物質検査の結果について、市ホームページで情報提供を行い、市民の不安解消に努めた。
今後の課題 ・ 反省点	・引き続き、市ホームページで新潟県が実施している農林水産物等の放射性物質検査の結果を情報提供し、放射性物質に対する不安解消に努めていく。	・引き続き、市ホームページで新潟県が実施している農林水産物等の放射性物質検査の結果を情報提供し、放射性物質に対する不安解消に努めていく。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(8)-① 地域食材による給食の提供
事業担当課	教育総務課
取組の概要	関係団体、生産者等と連携し、学校給食への地場産食材の利用促進を図る。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	関係団体、生産者等との連携を強化し、地場産食材の利用を促進する。				
(目標)	地場産使用率を向上させる。				
	使用率16%以上	使用率17%以上	使用率18%以上	使用率19%以上	使用率20%以上

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	△	△
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における青果物の年間使用量(必要量)を関係団体、生産者に周知し生産協力を依頼するとともに、生産者等からの出荷時期を確認し献立に反映させた。 ・平成28年度に地場産使用率の低い地区の関係者と連携を図り、学校への流通システムを検討し取組みを開始したことで、全ての地区で地場産食材の利用を促進した。 ・全体の野菜使用量に対する地場産野菜使用率 12.26% 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における青果物の年間使用量(必要量)を関係団体、生産者に周知し生産協力を依頼するとともに、生産者等からの出荷時期を確認し献立に反映させた。 ・関係団体と生産者との打合せに出席し、学校給食における地場産野菜について該当地区の情報を提供するとともに、協力と今後の連携について依頼した。 ・全体の野菜使用量に対する地場産野菜使用率 16.79% (H30.12月末現在)
今後の課題 ・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産野菜の納入体制は関係団体、生産者等との連携を図る中で確立されてきているが、今後も学校給食に地場産野菜の利用が図れるよう生産・納入体制を継続して協議していく必要がある。 ・地場産野菜の生産量・品質が気象条件等に左右される中、地場産野菜を安定して提供してもらえるよう関係団体、生産者等に協力をお願いしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産野菜の納入体制は関係団体、生産者等との連携を図る中で確立されてきているが、今後も学校給食に地場産野菜の利用が図れるよう生産・納入体制を継続して協議していく必要がある。 ・積極的に地域の生産者と情報共有を図っていく。 ・地場産野菜の生産量・品質が気象条件等に左右される中、地場産野菜を安定して提供してもらえるよう関係団体、生産者等に協力をお願いしていく。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(8)-① 学校給食用野菜産地の育成
事業担当課	農政課
取組の概要	関係団体、生産者と連携し、学校給食用野菜の供給体制の確立を図る。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	学校給食用野菜の生産拡大を支援するとともに、生産者、関係団体と連携した生産供給体制を強化する。				
(目標)	地場産野菜の使用率を向上させる。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における地場産野菜の使用率が低い地域を重点地区として選定し、学校給食用野菜の生産に係る初度的経費を支援するとともに、生産者やJA、小売店、教育委員会などの関係機関と連携・協力し、生産・供給体制の構築を図った。 ・H29.4.12FM-Jにおいて、生産者の募集を行ったほか、生産者招待給食や給食運営協議会へ出席し、地場産野菜供給の取組等について説明を行った。 ・H29.11.18食育フォーラムにおいて、地場産野菜の学校給食への利用拡大に関する資料展示を行い、市の方針や生産者の取組事例などを市民等へ広くPRした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における地場産野菜の使用率が低い地域を重点地区として選定し、学校給食用野菜の生産に係る初度的経費や、機械の導入経費を支援するとともに、生産者やJA、小売店、教育委員会などの関係機関と連携・協力し、生産・供給体制の強化を図った。 ・H30.11.17食育フォーラムにおいて、地場産野菜の学校給食への利用拡大に関する資料展示を行い、市の方針や生産者の取組事例などを市民等へ広くPRした。 ・全体の野菜使用量に対しての地場産野菜使用率 平成29年度：12.26% 平成30年度：16.79% (H30.12月末現在) (前年度比 4.53ポイント増)
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き重点地区において、生産・供給体制の強化並びに各生産者に対するフォローアップに取り組み、地場産野菜使用量の増加を図る必要がある。 ・全市的に気象条件等によって野菜の品質や供給量が大きく左右される状況にあることから、安定的な生産・供給が行われるよう、指導機関と連携し、生産者への技術的な支援、指導についても力を入れていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、市（教育総務課、農政課）と重点4地区の学校栄養士、JAえちご上越、生産者が連携し、情報共有や協議、意見交換を行う中で供給体制の見直し及び強化を図り、地場産野菜使用量の増加を目指す。 ・全市的に気象条件等によって野菜の品質や供給量が大きく左右される状況にあることから、安定的な生産・供給が行われるよう、指導機関と連携し、生産者への技術的な支援、指導についても力を入れていく必要がある。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(8)-② 直売所情報の発信
事業担当課	農政課
取組の概要	地産地消の拠点施設である直売所の情報について広く市民にお知らせし、地産地消の推進を図る。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	農産物直売所マップや新聞等により情報発信を行う。				
(目標)	市内農産物直売所の販売額を増加させる。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸技術の継承と直売所の販売強化を図るため、直売所連絡協議会員及び一般市民を対象とした「わら細工体験会」を開催した。 【日 時】平成29年8月29日(火) 【会 場】上越市民プラザ 【参加者】18名 ・地元新聞に直売所のイベント情報等を掲載し、市民等への周知を行った(年3回)ほか、食育フォーラム等のイベントで農産物直売所マップを配布し、誘客強化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所の運営強化と魅力アップを図るため、直売所連絡協議会員を対象とした「視察研修会」を実施した。 【日 時】平成30年7月5日(木) 【研修場所】(有)高儀農場(新潟市北区新崎) 【参加者】15名(直売所連絡協議会員13名、市2名) ・地元新聞に直売所のイベント情報等を掲載し、市民等への周知を行った(年3回)ほか、食育フォーラム等のイベントで農産物直売所マップを配布し、誘客強化を図った。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地元新聞を活用し、農産物直売所に関する情報発信に努め、各農産物直売所の一層の販売強化を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地元新聞を活用し、農産物直売所に関する情報発信に努め、各農産物直売所の一層の販売強化を促進する。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(9)-① 園芸振興事業
事業担当課	農政課
取組の概要	地場産野菜の普及のため、関係団体、農業者と連携し、園芸作物の作付拡大、品質向上を図る。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	園芸作物の生産拡大等に係る経費の一部を支援する。				
(目標)	地場産野菜の生産を拡大させる。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸導入に複合経営を推進するため、「えだまめ」及び水稲・えだまめ後作のブロッコリー等の「秋冬野菜」の生産に係る初度的経費の一部を支援した。 ・県事業を活用し園芸用パイプハウスの導入を支援することで、施設園芸による周年栽培の取組拡大を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸導入に複合経営を推進するため、「えだまめ」及び水稲・えだまめ後作のブロッコリー等の「秋冬野菜」の生産に係る初度的経費の一部を支援した。 ・県事業（農林県単：新規就農者資本装備支援、多角化複合化経営発展支援）を活用し園芸用のパイプハウスや鉄骨ハウスの導入を支援することで、施設園芸による周年栽培の取組拡大を図った。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、水田を高度利用した園芸導入や生産拡大の取組を推進し、農家の所得向上、体質強化を図る必要がある。 ・近年、天候不順や長雨の影響により、収量や品質の低下といった事案が見られることから、天候に応じた適切な栽培管理の徹底を啓発する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、水田を高度利用した園芸導入や生産拡大の取組を推進し、農家の所得向上、体質強化を図る必要がある。 ・近年、天候不順や長雨の影響により、収量や品質の低下といった事案が見られることから、天候に応じた適切な栽培管理の徹底を啓発する必要がある。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(9)-② 農林漁業体験活動等の情報提供
事業担当課	農村振興課
取組の概要	市内で行われている農林漁業体験活動等の情報を市民が必要な時に容易に入手できるよう、情報提供の体制を充実させる。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	市ホームページや広報上越等を通じ、農林漁業体験活動についての情報を発信する。				
(目標)	市民が容易に農林漁業体験に関する情報を入手できるようにする。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ及び広報上越において、農林漁業体験等の参加者募集記事を掲載し、周知を行った。 ・市ホームページ「上越の食育」では、『食育体験メニュー』として越後田舎体験推進協議会及びにいがたグリーン・ツーリズムの外部リンクの形で掲載している。 また、市内のNPO法人等が実施するイベント情報も入手できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ「上越の食育」では、『食育体験メニュー』として越後田舎体験推進協議会及びにいがたグリーン・ツーリズムの取組を紹介した。 また、市内のNPO法人等が実施するイベント情報を提供した。
今後の課題 ・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・市で行う農林漁業体験等の情報は、担当課が個々に情報提供している現状がある。市で行う体験内容を把握し、関係課と連携し、市民が入手しやすい方法を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、市ホームページで紹介している団体以外の情報も提供できるよう、情報収集を進める。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(9)-③ 都市と農村の交流促進
事業担当課	農村振興課
取組の概要	こだわりを持った地域農産物の購入や市民農園等での農作業体験を楽しみとする都市住民に、食や農への認識を深める機会を広く提供し、都市と農村の交流活動を促進する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	市民農園の貸し付けと農作業体験交流を実施するとともに、都市生協の組合員等による農作業体験事業・交流事業を実施する。				
(目標)	都市との交流体験人数を361人以上とする。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	△	○
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の3つの市民農園を契約している首都圏居住者：23人 ・首都圏生協パルシステム東京の組合員が当市を訪れ、田植えや稲刈りといった農業体験のほか、酒仕込みや鮭つかみどりといった地域の食に触れる体験を行った。また、上越市から講師が出向き、都内においてそば打ち体験や味噌づくり講習会などを行った。このことで、都市住民との交流が促進されるとともに、交流参加者の上越市の食と農に対する理解や関心を深めることができた。(交流人数：257人) ・東京農工大学のファームステイ、法政大学OBと川谷地区との交流などの民間交流を行った。(交流人数：26人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の3つの市民農園を契約している首都圏居住者：20人 ・首都圏生協パルシステム東京の組合員が当市を訪れ、田植えや稲刈りといった農業体験のほか、酒仕込みや鮭のつかみどりといった地域の食に触れる体験を行った。また、上越市から講師が出向き、都内においてそば打ち体験や味噌づくり、棚田米の学習会を行い、産地と生協組合員との交流が図られた。交流人数：316人(H30.12月末現在。3月17日開催の新酒完成会の人数は見込数。) ・東京農工大学のファームステイ、法政大学OBと川谷地区との交流などの民間交流を行った。(交流人数：35人)
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・都市との交流体験人数は306人で目標値に達しなかった。 ・「食料と農業に関する基本協定」に基づき、首都圏生協組合員等が、地域住民と交流し、楽しみながら農作業体験を行えるよう、魅力ある体験内容を検討し、食や農への認識を深める機会を提供する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市との交流体験人数は371人(H30.12月末現在)で目標を達成する見込み。 ・特に「食料と農業に関する基本協定」に基づいた首都圏生協組合員等との交流事業は、体験内容の固定化が見られることから、上越市ならではの新たな農林漁業体験を検討するなどし、交流人口を増やす。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(10)-① 多面的機能支払（生物多様性保全の推進）
事業担当課	農林水産整備課
取組の概要	多面的機能支払に取り組む地区において、生物多様性保全の推進に資する活動（生物の生息状況の把握、水田を活用した生息環境の提供等）を行うことにより、食料生産環境への理解の促進を図る。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	生物多様性保全の内容を活動組織に説明し、取組の推進を図る。				
(目標)	取組組織数を41以上とする。	取組組織数を42以上とする。	取組組織数を43以上とする。	取組組織数を44以上とする。	取組組織数を45以上とする。

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	○	○
主な事業実績	・生物多様性保全の活動について、生物の生息状況の把握、生物多様性の保全に配慮した施設の適正管理、水田を活用した生息環境の提供等に取組む活動組織は41組織であり、目標を達成した。	・生物多様性保全の活動について、生物の生息状況の把握、生物多様性の保全に配慮した施設の適正管理、水田を活用した生息環境の提供等に取組む活動組織は43組織となり、目標を達成した。
今後の課題・反省点	・次年度以降、目標の達成に向け、研修会や実績確認の際の相談を通じ、当該活動の維持及び新たな取組みを推進していく。	・次年度以降、目標の達成に向け、研修会や実績確認の際の相談を通じ、当該活動の維持及び新たな取組みを推進していく。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(10)-① 環境保全型農業直接支援対策
事業担当課	農政課
取組の概要	自然環境への負荷軽減や安全な農産物に対する消費者ニーズに応えるため、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動を実践する農業者等を支援することにより、環境保全型農業にかかる技術の蓄積や地域への波及を目指す。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	化学肥料及び化学合成農薬の使用を5割以上低減する取組とセットで行われる地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動及び有機農業に取り組む農業者等を支援する。				
(目標)	取組組織数及び面積を拡大させる。				
	87組織 以上 1,410ha 以上	89組織 以上 1,440ha 以上	89組織 以上 1,440ha 以上	90組織 以上 1,460ha 以上	91組織 以上 1,473ha 以上

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	△	△
主な事業実績	<p>■ 交付対象面積は、当初見込んだ1,409haから346ha減の1,063haとなった。</p> <p>【面積減の主な理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カバークロープ、堆肥の施用 気象条件等により、取組の申請はしたものの履行できなかったほ場があったため。 ・有機農業 生育不良に対応するため、追肥などにより有機農業が実施できなかったため。 ・冬期湛水管理 ほ場の白鳥被害により取止めたため。 稲刈り時期が遅くなり、湛水できず取止めたため。 <p>■ 計画認定組織は対前年比3組織増の90組織、構成員は対前年比8人増の334人となり、取組の拡大が図られた。</p>	<p>■ 交付対象面積は、当初見込んだ1,374haから396ha減の978haとなる見込み。</p> <p>【面積減の主な理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カバークロープ、堆肥の施用 気象条件等により、取組の申請はしたものの履行できなかったほ場があったため。 ・冬期湛水管理 ほ場の白鳥被害により取止めたため。 稲刈り時期が遅くなり、湛水できず取止めたため。 ・国際水準GAPの実施 研修を受講しなかったため。 <p>■ 計画認定組織は対前年比2組織増の92組織、構成員は対前年比3人増の337人となり、取組の拡大が図られた。</p>
今後の課題・反省点	・多面的機能支払や中山間地域等直接支払の制度と連携して制度説明会を開催するほか、制度周知チラシの配布することにより、農業者へのより一層の制度の浸透を図り、取組面積を拡大する。	・多面的機能支払や中山間地域等直接支払の制度と連携して制度説明会を開催するほか、制度周知チラシの配布することにより、農業者へのより一層の制度の浸透を図り、取組面積を拡大する。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(10)-② 桑取川魚の森づくり事業
事業担当課	農林水産整備課
取組の概要	上越地域の豊かな川や海の恵みを今後も引き続き享受し将来に伝えられるよう、良質な水環境の保全を図る根元となる豊かな森林を守り育てる活動を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	年2回、下草刈り等の森林保育活動を行う。				
(目標)	参加団体を13団体以上、参加人数を170人以上にする。				

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	△	△
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体から協力を得て、7月6日(木)と10月7日(土)の2回、下草刈りやつる切り、森の遊び場の整備(木材チップの敷き均し)など森林の保育活動を実施した。 10月7日の活動には、漁業関係者や地元町内会、協賛企業など12団体、122名の皆さんから参加していただいた。 2回の合計参加者数は157人。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体から協力を得て、7月5日(木)と10月6日(土)の2回、下草刈りやつる切り、森の遊び場の整備(木材チップの敷き均し)など森林の保育活動を実施した。 10月6日の活動には、漁業関係者や地元町内会、協賛企業など11団体、145名の皆さんから参加していただいた。 2回の合計参加者数は185人。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> 木の生育には相当な時間を要するため、引き続き関係者の協力を得ながら保育活動を実施していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 木の生育には相当な時間を要するため、引き続き関係者の協力を得ながら保育活動を実施していく必要がある。

平成30年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(10)-③ 食品ロス削減に関する啓発活動
事業担当課	農村振興課
取組の概要	資源の有効活用や環境負荷の低減はもとより、食の大切さを再認識することにもつながるため、家庭や外食時における食品ロスの削減方法を啓発する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
(事業計画)	市ホームページやイベントにおいて食品ロス現況や削減のための方策を周知する。				
(目標)	食品ロス削減のために何らかの行動している人を72%以上にする。	食品ロス削減のために何らかの行動している人を74%以上にする。	食品ロス削減のために何らかの行動している人を76%以上にする。	食品ロス削減のために何らかの行動している人を78%以上にする。	食品ロス削減のために何らかの行動している人を80%以上にする。

★取組状況

	平成29年度	平成30年度
目標達成状況	◎	◎
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市環境フェア、食育フォーラムにおいて食品ロスの現状と削減に向けた方策を紹介し、啓発を行った。 ・「食の宝庫上越 おいしく残さず食べきろう！20・10運動」をキャッチフレーズとしたポスター・チラシを作成し、上越市地産地消推進の店や上越商工会議所を通じ市内事業所へ配布した。 ・市ホームページや報道機関を通じた市民啓発を行った。 ・食品ロス削減のため何らかの行動をしている人の割合 食育市民アンケート結果：77.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市環境フェアでは、環境問題と食品ロス削減を関連付けて周知した。 ・食育フォーラムでは、食品ロス削減に向けた方策を紹介し、啓発を行った。 ・11月8日開催の上越市生活環境研修会において「食の宝庫上越 おいしく残さず食べきろう！20・10運動」の取組を紹介し、研修会出席者の各取組につなげた。 ・食品ロス削減のため何らかの行動をしている人の割合 食育市民アンケート結果：79.1%
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発ポスター、チラシを作成したことにより、上越市の取り組みを周知できたことはよかった。 ・引き続き、啓発ポスター、チラシを活用し、市民の食品ロスの削減への理解と「20・10運動」の実践に向け、周知を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロス問題は全国的にも課題になっていることもあり、市民の関心高く、実際にとりくんでいる人も多い。引き続き、具体的な取組例を提示し、周知を行う。

平成30年度 上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理一覧表

基本方針	No.	事業名	目標達成状況		担当課
			H29	H30	
家庭を中心に子どもの時から生涯にわたり食を通じた心身の健康づくりを推進します	(1)-①	母子保健事業(すくすく赤ちゃんセミナー)	○	○	健康づくり推進課
	(1)-②	乳幼児期の食育推進	○	△	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
	(1)-③	学校における食育の推進	○	○	学校教育課
	(1)-④	思春期・青年期の食育の推進	○	○	健康づくり推進課・学校教育課
	(1)-⑤	保健指導事業	○	○	健康づくり推進課
	(1)-⑥	保健指導事業	○	△	健康づくり推進課
	(1)-⑦	母子保健事業、保健指導事業	△	△	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
	(1)-⑧	歯科保健事業の推進	○	△	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
	(1)-⑨	健康づくり支援店の拡大	◎	◎	健康づくり推進課
	(1)-⑩	身体機能維持支援事業	△	△	健康づくり推進課
	(2)-①	保健指導事業	○	○	健康づくり推進課
	(2)-②	保健指導事業	△	△	健康づくり推進課
	(2)-③	生活習慣病予防事業	△	△	健康づくり推進課
	(3)-①-①	家庭菜園での栽培体験等の推進	○	△	農村振興課
	(3)-①-②	食に関するイベント等の実施	○	○	農村振興課
	(3)-①-③	食生活の改善に必要な情報提供	○	○	農村振興課・関係課
	(3)-①-④	家族での共食についての啓発活動	△	△	農村振興課
	(3)-②-①	保育園・幼稚園・小中学校での食の体験活動	○	○	学校教育課・保育課
	(3)-②-②	家庭や地域とともに進める食に関する教育活動	○	○	学校教育課
	(3)-②-③	特色ある食に関する教育活動の推進	○	○	学校教育課
(3)-③-①	保健指導事業、食生活改善事業	△	△	健康づくり推進課	
(3)-③-②	日本型食生活の普及活動	○	△	農村振興課・関係課	
(3)-③-③	国が定める「食育月間」、「食育の日」の普及活動	○	△	農村振興課	
(3)-③-④	地域での共食についての情報提供	△	△	農村振興課	
地域食育の活動の文化を推進し継承により	(4)-①	郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施	○	○	社会教育課
	(4)-①	謙信KIDSプロジェクト	○	○	社会教育課
	(4)-①	「発酵のまち上越」の啓発活動	△	○	上越ものづくり振興センター
	(4)-②	地場の食品、郷土料理を取り入れた学校給食の推進	○	○	教育総務課
	(4)-③	地産地消推進の店認定事業	○	○	農村振興課
食育推進環境づくりに関係し共有	(5)-①	食育推進関連団体との連携強化	△	△	農村振興課・関係課
	(5)-②	健康づくり推進協議会の開催	○	○	健康づくり推進課
	(6)-①	食育に関する積極的な情報提供	○	○	農村振興課・関係課
	(6)-①	給食だよりの発行による情報提供	○	○	教育総務課
	(6)-②	食育フォーラムの開催	○	○	農村振興課・関係課
	(7)-①	食の安全に関する情報発信	○	○	健康づくり推進課
	(7)-②	農畜産物の表示に関する研修や啓発活動の実施	○	○	農政課
	(7)-③	農林水産物等の放射性物質検査の情報発信	○	○	農政課・農林水産整備課
業への活動の推進により上越の農林漁	(8)-①	地域食材による給食の提供	△	△	教育総務課
	(8)-①	学校給食用野菜産地の育成	○	○	農政課
	(8)-②	直売所情報の発信	○	○	農政課
	(9)-①	園芸振興事業	○	○	農政課
	(9)-②	農林漁業体験活動等の情報提供	○	○	農村振興課
	(9)-③	都市と農村の交流促進	△	○	農村振興課
	(10)-①	多面的機能支払(生物多様性保全の推進)	○	○	農林水産整備課
	(10)-①	環境保全型農業直接支援対策	△	△	農政課
	(10)-②	桑取川魚の森づくり事業	△	△	農林水産整備課
	(10)-③	食品ロス削減に関する啓発活動	◎	◎	農村振興課

総括表

達成状況	事業数	
	H29	H30
◎・・・計画した以上に成果が挙げた	2	2
○・・・計画どおりの事業を実施した	32	28
△・・・計画された事業に取り組んだが成果が不十分だった	12	17
×・・・計画した事業を行わなかった	0	0

第3次上越市食育推進計画指標項目の取組状況一覧

平成31年2月5日
上越市食育推進会議
資料 NO. 3

平成30年12月末現在

【基本方針1】家庭を中心に子どもの時から生涯にわたり食を通じた心身の健康づくりを推進します

指標項目	策定時 (H28)	最新値 (H30)	策定時との比較	目標値 (H33)	
1 朝食を欠食する市民の割合（全く食べない+あまり食べない）	小学生	3.3%	4.2%	↓	0%
	中学生	5.0%	6.2%	↓	0%
	若い世代（20～39歳）	12.3%	15.2%	↓	6%
2 虫歯のない児童・生徒の割合	3歳	87.4%	91.9% (H29年度データ)	↑	90%
	12歳	84.7%	87.5% (H29年度データ)	↑	86%
	17歳	63.1%	72.1% (H29年度データ)	↑	65%
3 ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合	63.9%	43.3%	↓	70%	
4 健康づくり支援店数	222軒	258軒 (H29年度データ)	↑	236軒	
5 適正体重を維持している市民の割合	20歳代～60歳代の男性	72.9%	71.5% (H30.12月末現在)	↓	75%
	20歳代～60歳代の女性	83.3%	77.8% (H30.12月末現在)	↓	85%
6 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合	61.5%	55.5%	↓	72%	
7 朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数	平均10回	平均9回	↓	平均11回	
8 普段の食生活の中で食べることを楽しんでいる市民の割合	81.5%	84.2%	↑	90%	
9 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	全世代	34.6%	38.0%	↑	80%
	若い世代（20～39歳）	31.1%	31.2%	↑	55%
10 地域等で共食したいと思う人が共食する割合	68.9%	65.7%	↓	75%	

【基本方針2】食育活動の推進により地域の食文化を継承します

指標項目	策定時 (H28)	最新値 (H30)	策定時との比較	目標値 (H33)
1 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民の割合	40.8%	71.0%	↑	50.0%
2 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代（20歳～39歳）の市民の割合	46.3%	50.7%	↑	60.0%
2 地域食材を積極的に活用する飲食店（地産地消推進の店）の認証店数	151軒	162軒	↑	170軒

【基本方針3】食育推進体制の整備と情報を共有できる環境づくりを推進します

指標項目	策定時 (H28)	最新値 (H30)	策定時との比較	目標値 (H33)	
1 食育推進ネットワーク（登録）会員数	64	65	↑	100	
2 保護者や生産者と一緒に食に関する学習会等を実施している小学校の割合	全小学校	全小学校	→	全小学校	
3 食育に関心を持っている市民の割合	72.1%	75.9%	↑	90.0%	
4 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合	全世代	66.8%	52.2%	↓	90.0%
	若い世代（20～39歳）	48.4%	45.4%	↓	70.0%

【基本方針4】食育活動の推進により上越の農林漁業への理解を促進します

指標項目	策定時 (H28)	最新値 (H30)	策定時との比較	目標値 (H33)
1 学校給食で地場産物（青果物）を使用する割合	13.6%	16.79% (H30.12月末現在)	↑	20%
2 野菜や米づくりなどの農業体験を行っている小学校の数	全小学校	全小学校	→	全小学校
3 環境保全型農業に積極的に取り組む組織数及び取組面積	82組織 1,157ha	66組織 978ha	↓	91組織 1,473ha
4 学校給食における食べ残しの割合	1.50%	1.39%	↑	1.50%
5 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	70.5%	79.1%	↑	80%

平成30年度「食育に関する市民アンケート」調査結果

■調査目的 市民の食育に対する関心や知識の現状と食育を実践している市民の割合を把握し、今後も全市民的運動として食育を推進していく上での施策の参考とする。

■調査期間 平成30年12月3日(月)～12月24日(月) 22日間

■調査対象者 上越市の住民基本台帳に登録されている満18歳以上の市民3,000人を無作為抽出

■調査方法 郵送によるアンケートの配布ならびに回収

■回収数・回収率 □回収数 1,210 (平成29年度1,332人 122人減)

□回収率 40.3% (平成29年度44.4% 4.1ポイント減)

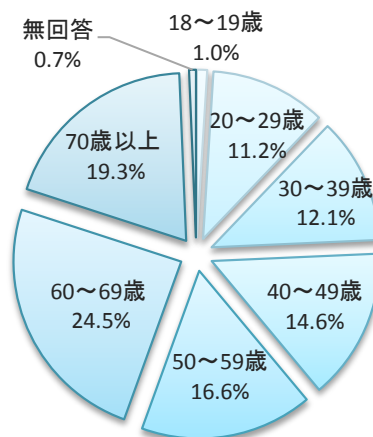
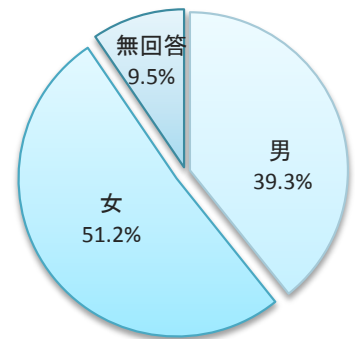
■回答者の構成(Q1)

年齢

年齢層	人数	%	H29割合 (%)
18～19歳	12	1.0%	1.1%
20～29歳	135	11.2%	9.5%
30～39歳	147	12.1%	14.8%
40～49歳	177	14.6%	13.9%
50～59歳	201	16.6%	17.0%
60～69歳	296	24.5%	24.0%
70歳以上	234	19.3%	18.5%
無回答	8	0.7%	1.2%

性別

性	人数	%	H29割合 (%)
男	475	39.3%	39.4%
女	620	51.2%	48.3%
無回答	115	9.5%	12.3%



【アンケート調査結果の記載方法について】

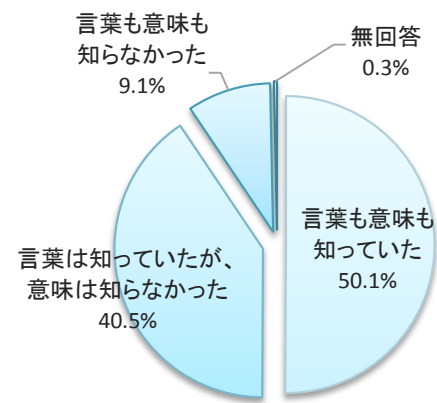
1. 表中の「N」は有効回答者総数を示し、各選択肢の比率算出の基礎となっている。
2. 表中の比率(%)は小数点第2位を四捨五入しているため、個々の選択肢の比率の合計が100%にならない場合がある。

Q2: あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。(1つだけ○)

N = 1,210 (参考: H29)

ア	言葉も意味も知っていた	606	50.1%	49.9%	↑
イ	言葉は知っていたが、意味は知らなかった	490	40.5%	41.9%	↓
ウ	言葉も意味も知らなかった	110	9.1%	7.5%	↑
	無回答	4	0.3%	0.7%	↓

「言葉も意味も知っていた」、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」人の割合: 90.6%
 ※参考: H29食育市民アンケート結果: 91.8% (1.2ポイント減)

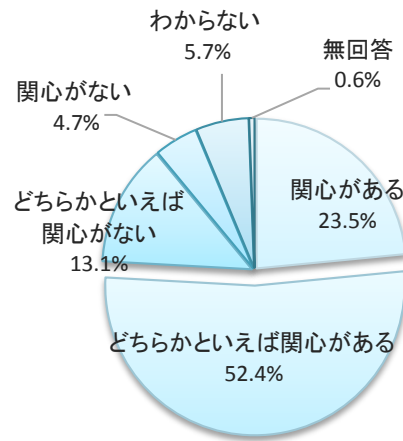


Q3: あなたは「食育」に関心がありますか。(1つだけ○)

N = 1,210 (参考: H29)

ア	関心がある	284	23.5%	23.8%	↓
イ	どちらかといえば関心がある	634	52.4%	50.6%	↑
ウ	どちらかといえば関心がない	159	13.1%	17.1%	↓
エ	関心がない	57	4.7%	3.7%	↑
オ	わからない	69	5.7%	4.1%	↑
	無回答	7	0.6%	0.7%	↓

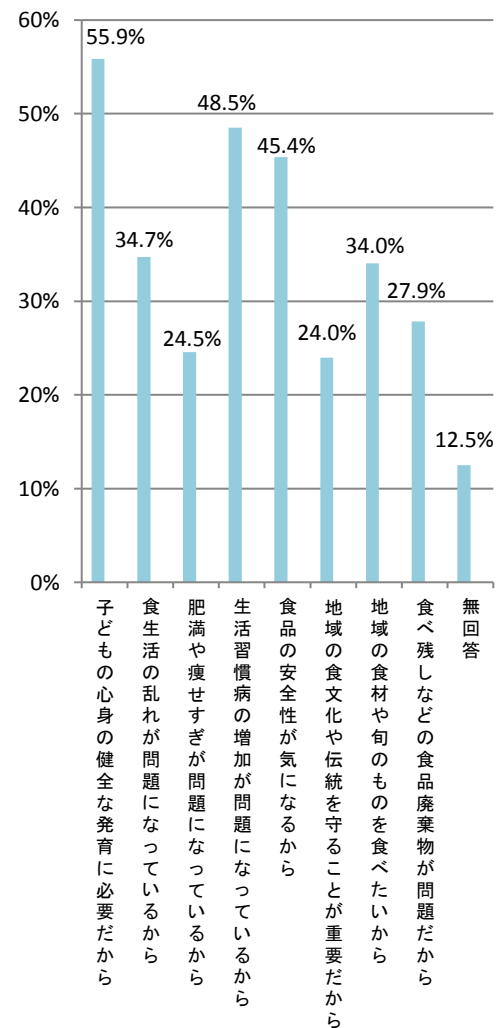
「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」人の割合: 75.9%
 ※参考: H29食育市民アンケート結果: 74.4% (1.5ポイント増)



Q4: あなたが「食育」に関心がある理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

N = 1,210 (参考: H29)

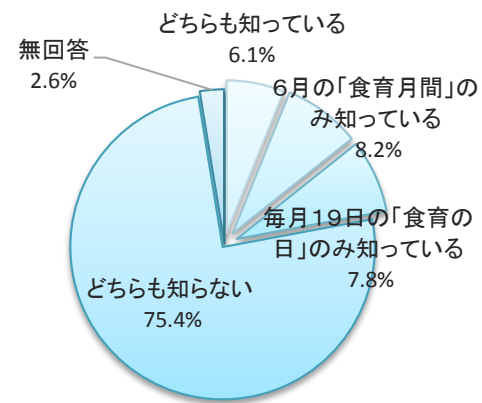
ア	子どもの心身の健全な発育に必要なから	676	55.9%	52.1%	↑
イ	食生活の乱れが問題になっているから	420	34.7%	37.7%	↓
ウ	肥満や痩せすぎが問題になっているから	297	24.5%	22.1%	↑
エ	生活習慣病の増加が問題になっているから	587	48.5%	48.5%	—
オ	食品の安全性が気になるから	549	45.4%	47.3%	↓
カ	地域の食文化や伝統を守ることが重要だから	290	24.0%	23.0%	↑
キ	地域の食材や旬のものを食べたいから	412	34.0%	34.6%	↓
ク	食べ残しなどの食品廃棄物が問題だから	337	27.9%	27.9%	—
	無回答	151	12.5%	12.2%	↑



Q5:あなたは6月の「食育月間」、毎月19日の「食育の日」を知っていますか。

N= 1,210

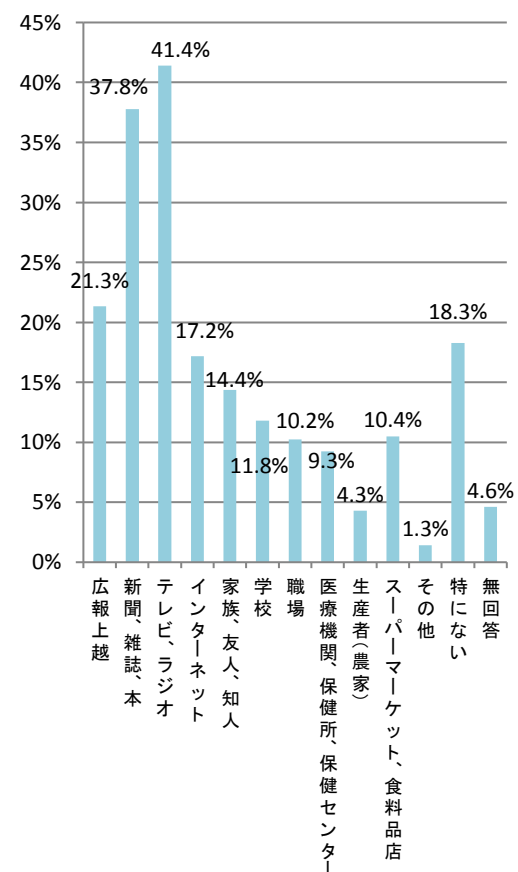
ア	どちらも知っている	74	6.1%
イ	6月の「食育月間」のみ知っている	99	8.2%
ウ	毎月19日の「食育の日」のみ知っている	94	7.8%
エ	どちらも知らない	912	75.4%
	無回答	31	2.6%



Q6:あなたは、食育に関する情報をどこから入手していますか。(あてはまるもの全てに○)

N= 1,210 (参考:H29)

ア	広報上越	258	21.3%	17.5%	↑
イ	新聞、雑誌、本	457	37.8%	51.4%	↓
ウ	テレビ、ラジオ	501	41.4%	53.5%	↓
エ	インターネット	208	17.2%	23.6%	↓
オ	家族、友人、知人	174	14.4%	21.1%	↓
カ	学校	143	11.8%	9.9%	↑
キ	職場	124	10.2%	8.8%	↑
ク	医療機関、保健所、保健センター	112	9.3%	10.8%	↓
ケ	生産者(農家)	52	4.3%	5.6%	↓
コ	スーパーマーケット、食料品店	127	10.5%	14.3%	↓
サ	その他	17	1.4%	1.4%	-
シ	特になし	221	18.3%	12.5%	↑
	無回答	56	4.6%	3.8%	↑

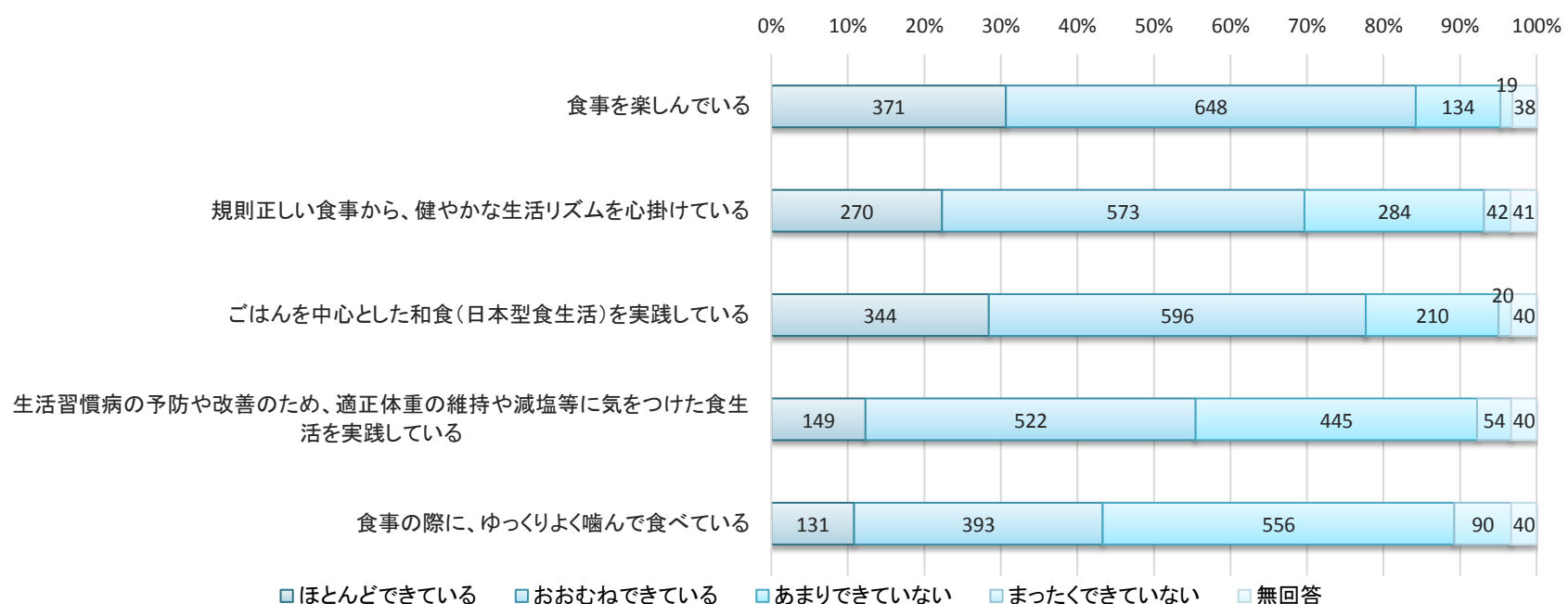


Q7:あなたは、普段の食生活で、下記の内容をどの程度実践していますか。(それぞれ1つだけ○)

N= 1,210

	ほとんどできている	おおむねできている	あまりできていない	まったくできていない	無回答
① 食事を楽しんでいる	371	648	134	19	38
② 規則正しい食事から、健やかな生活リズムを心掛けている	270	573	284	42	41
③ ごはんを中心とした和食(日本型食生活)を実践している	344	596	210	20	40
④ 生活習慣病の予防や改善のため、適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践している	149	522	445	54	40
⑤ 食事の際に、ゆっくりよく噛んで食べている	131	393	556	90	40

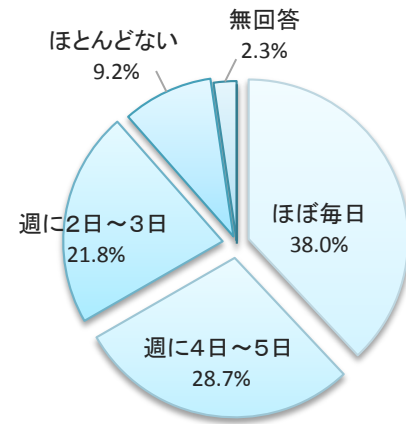
	ほとんどできている・おおむねできている	(参考:H29)
① 食事を楽しんでいる	84.2%	84.5% ↓
② 規則正しい食事から、健やかな生活リズムを心掛けている	69.7%	72.7% ↓
③ ごはんを中心とした和食(日本型食生活)を実践している	77.7%	79.7% ↓
④ 生活習慣病の予防や改善のため、適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践している	55.5%	56.5% ↓
⑤ 食事の際に、ゆっくりよく噛んで食べている	43.3%	70.2% ↓



Q8:あなたは、主食(ごはん・パン・麺など)・主菜(肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理)・副菜(野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理)を3つそろえて食べることが1日に2回以上あるのは、週に何日ありますか。(1つだけ○)

N= 1,210 (参考:H29)

ア	ほぼ毎日	460	38.0%	36.6%	↑
イ	週に4日~5日	347	28.7%	29.4%	↓
ウ	週に2日~3日	264	21.8%	23.6%	↓
エ	ほとんどない	111	9.2%	8.4%	↑
	無回答	28	2.3%	2.0%	↑



【若い世代(20歳~39歳)のみ】

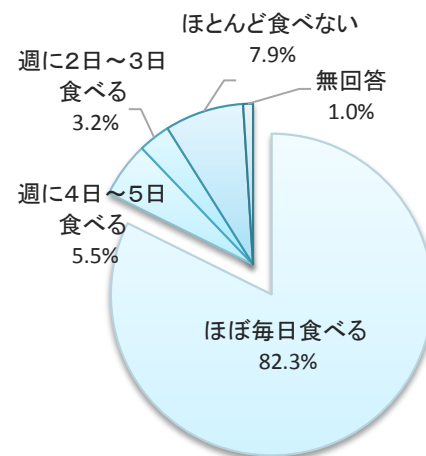
N= 282 (参考:H29)

ア	ほぼ毎日	88	31.2%	31.6%	↓
---	------	----	-------	-------	---

Q9:あなたは普段朝食を食べますか。(1つだけ○)

N= 1,210 (参考:H29)

ア	ほぼ毎日食べる	996	82.3%	83.1%	↓
イ	週に4日~5日食べる	67	5.5%	5.1%	↑
ウ	週に2日~3日食べる	39	3.2%	4.1%	↓
エ	ほとんど食べない	96	7.9%	7.3%	↑
	無回答	12	1.0%	0.5%	↑



【若い世代(20歳~39歳)のみ】

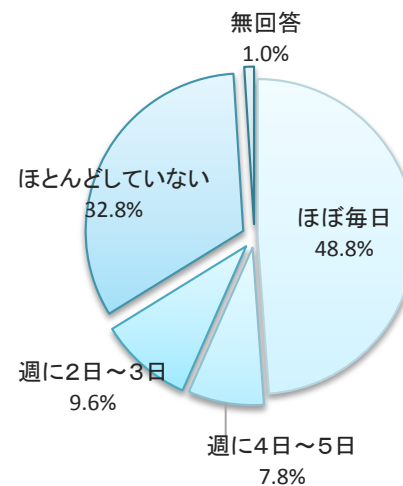
N= 282 (参考:H29)

エ	ほとんど食べない	43	15.2%	7.4%	↑
---	----------	----	-------	------	---

Q10:あなたは、家庭で料理をしていますか。(1つだけ○)

N= 1,210 (参考:H29)

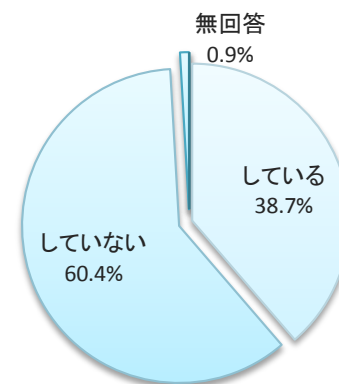
ア	ほぼ毎日	591	48.8%	50.4%	↓
イ	週に4日~5日	94	7.8%	7.9%	↓
ウ	週に2日~3日	116	9.6%	10.4%	↓
エ	ほとんどしていない	397	32.8%	30.8%	↑
	無回答	12	1.0%	0.5%	↑



Q11:あなたは、家庭菜園などの作物栽培等をしていますか。(1つだけ○)

N= 1,210 (参考:H29)

ア	している	468	38.7%	40.3%	↓
イ	していない	731	60.4%	59.1%	↑
	無回答	11	0.9%	0.6%	↑

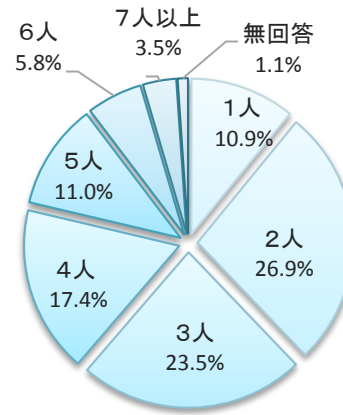


Q12: 家族との食事についておたずねします。

①あなたの家族構成について、あなたが同居している方はあなたを含めて何人ですか。(1つだけ○)

N= 1,210 (参考:H29)

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	無回答
1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	
132	326	284	210	133	70	42	13
10.9%	26.9%	23.5%	17.4%	11.0%	5.8%	3.5%	1.1%
10.7% ↑	26.1% ↑	26.0% ↓	17.1% ↑	9.4% ↑	5.9% ↓	4.2% ↓	0.6% ↑



家族と同居している方のみ(①で「イ」から「キ」と回答した方)おたずねします。

②あなたが朝食または夕食を家族と一緒に食べる回数は1週間にどのくらいありますか。(1週間7日で朝食・夕食2回、14回を最大とする。)

N= 1,065 (参考:H29)

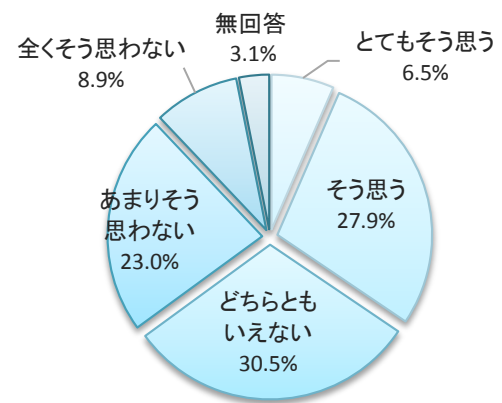
1週間のうち朝食または夕食を家族と一緒に食べる回数(平均)	9回	10回 ↓
-------------------------------	----	-------

Q13: 地域等での共食についておたずねします。

①地域や所属コミュニティ(職場等を含む)での食事会等の機会があれば、あなたは参加したいと思いますか。(1つだけ○)

N= 1,210 (参考:H29)

ア	イ	ウ	エ	オ	無回答
とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない	
79	338	369	278	108	38
6.5%	27.9%	30.5%	23.0%	8.9%	3.1%
6.3% ↑	28.5% ↓	31.5% ↓	22.3% ↑	9.3% ↓	2.2% ↑



地域で共食したいと思う人の割合(「とてもそう思う」、「そう思う」の合計): 34.4%

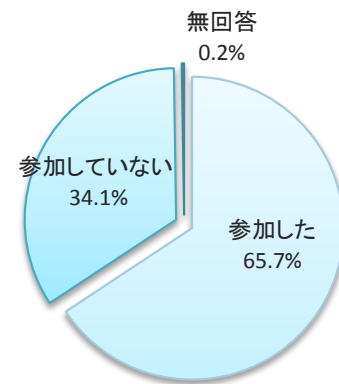
※参考: H29食育市民アンケート結果34.8% (0.4ポイント減)

①でア(とてもそう思う)またはイ(そう思う)を選択した方にお聞きします。

②あなたは過去1年間に、地域や所属コミュニティでの食事会等に参加しましたか。

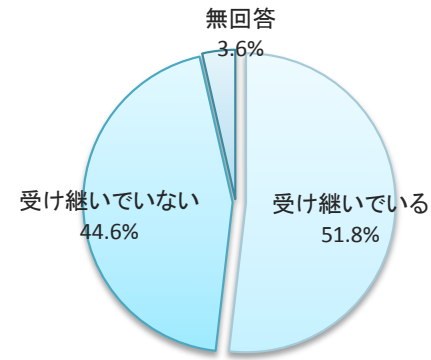
N= 417 (参考:H29)

ア	イ	無回答
参加した	参加していない	
274	142	1
65.7%	34.1%	0.2%
69.1% ↓	30.2% ↑	0.6% ↓



Q14: あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭において受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。(1つだけ○)

		N= 1,210 (参考:H29)		
ア	受け継いでいる	627	51.8%	53.2% ↓
イ	受け継いでいない	540	44.6%	44.0% ↑
ウ	無回答	43	3.6%	2.8% ↑



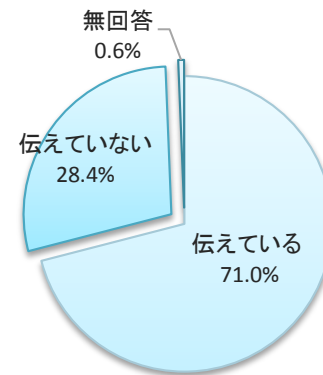
【若い世代(20歳~39歳)のみ】

		N= 282 (参考:H29)		
ア	受け継いでいる	143	50.7%	43.3% ↑

①でア(受け継いでいる)と回答した方におたずねします。

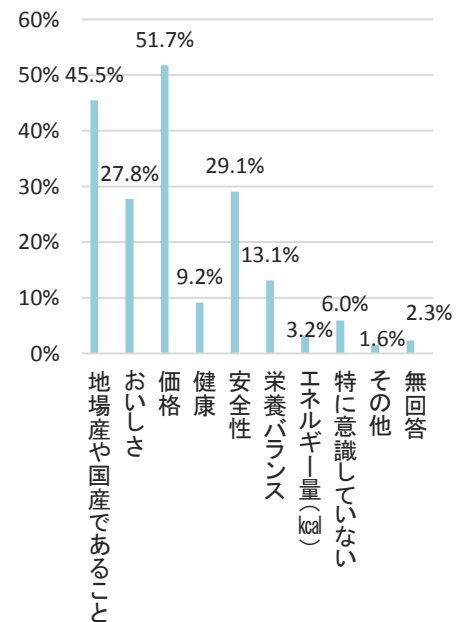
②あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭において受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を地域や次世代(子やお孫さんを含む)に対し伝えていきますか。(1つだけ○)

		N= 627 (参考:H29)		
ア	伝えている	445	71.0%	69.4% ↑
イ	伝えていない	178	28.4%	29.9% ↓
ウ	無回答	4	0.6%	0.7% ↓



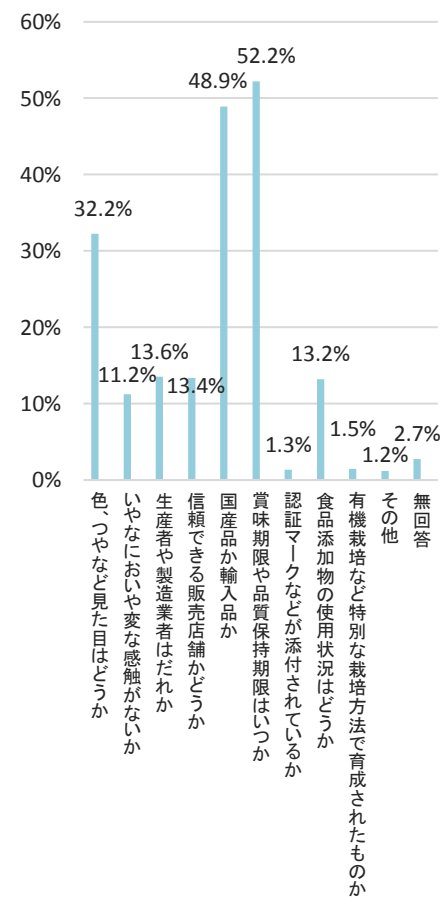
Q15: あなたが、食品を購入する際に特に意識していることは何ですか。(2つまで○)

		N= 1,210 (参考:H29)		
ア	地場産や国産であること	550	45.5%	—
イ	おいしさ	336	27.8%	40.2%
ウ	価格	626	51.7%	60.2%
エ	健康	111	9.2%	12.9%
オ	安全性	352	29.1%	41.4%
カ	栄養バランス	159	13.1%	18.8%
キ	エネルギー量(kcal)	39	3.2%	5.9%
ク	特に意識していない	72	6.0%	6.4%
ケ	その他	19	1.6%	2.6%
	無回答	28	2.3%	2.0%



Q16: あなたが、食品を購入する際に安全性をどのように判断しますか。(2つまで○)

		N= 1,210 (参考:H29)		
ア	色、つやなど見た目はどうか	390	32.2%	30.8% ↑
イ	いやなおいや変な感触がないか	136	11.2%	10.0% ↑
ウ	生産者や製造業者はだれか	164	13.6%	15.6% ↓
エ	信頼できる販売店舗かどうか	162	13.4%	13.5% ↓
オ	国産品か輸入品か	592	48.9%	53.3% ↓
カ	賞味期限や品質保持期限はいつか	632	52.2%	52.0% ↑
キ	認証マークなどが添付されているか	16	1.3%	1.1% ↑
ク	食品添加物の使用状況はどうか	160	13.2%	12.1% ↑
ケ	有機栽培など特別な栽培方法で育成されたものか	18	1.5%	1.1% ↑
コ	その他	14	1.2%	0.8% ↑
	無回答	33	2.7%	2.4% ↑

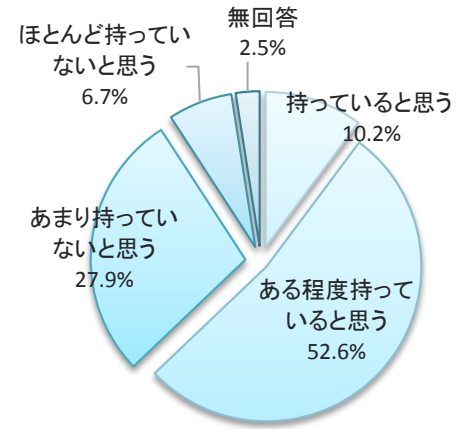


Q17:あなたは、食の安全に関してどの程度知識を持っていると思いますか。(1つだけ○)

N= 1,210 (参考:H29)

ア	持っていると思う	124	10.2%	9.8%	↑
イ	ある程度持っていると思う	637	52.6%	51.0%	↑
ウ	あまり持っていないと思う	338	27.9%	30.6%	↓
エ	ほとんど持っていないと思う	81	6.7%	6.8%	↓
	無回答	30	2.5%	2.0%	↑

「持っていると思う」、「ある程度持っていると思う」人の割合:62.8%
 ※参考:H29食育市民アンケート結果:60.8%(2ポイント増)



【若い世代(20歳~39歳)のみ】

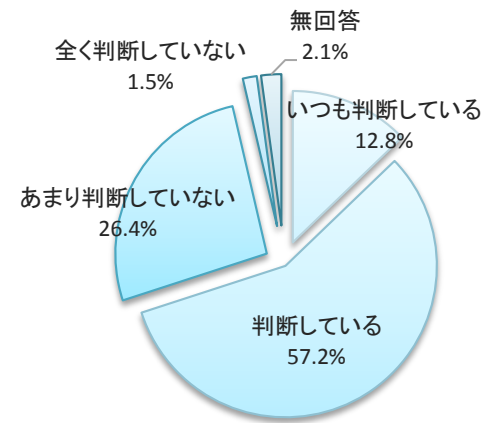
N= 282 (参考:H29)

食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合	148	52.5%	50.8%	↑
-----------------------------	-----	-------	-------	---

Q18:あなたは、安全な食生活を送ることについてどの程度判断していますか。(1つだけ○)

N= 1,210 (参考:H29)

ア	いつも判断している	155	12.8%	12.8%	—
イ	判断している	692	57.2%	55.6%	↑
ウ	あまり判断していない	319	26.4%	28.2%	↓
エ	全く判断していない	18	1.5%	1.5%	—
	無回答	26	2.1%	1.9%	↑



【若い世代(20歳~39歳)のみ】

N= 282 (参考:H29)

安全な食生活を送ることについて判断している市民の割合	173	61.3%	60.7%	↑
----------------------------	-----	-------	-------	---

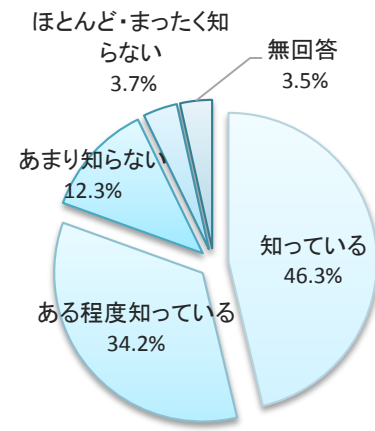
Q19: 食品ロスについておたずねします。

①あなたは、こうした「食品ロス」という問題を知っていますか。(1つだけ○)

N= 1,210 (参考:H29)

ア	知っている	560	46.3%	44.5%	↑
イ	ある程度知っている	414	34.2%	34.3%	↓
ウ	あまり知らない	149	12.3%	13.9%	↓
エ	ほとんど・まったく知らない	45	3.7%	3.5%	↑
	無回答	42	3.5%	3.8%	↓

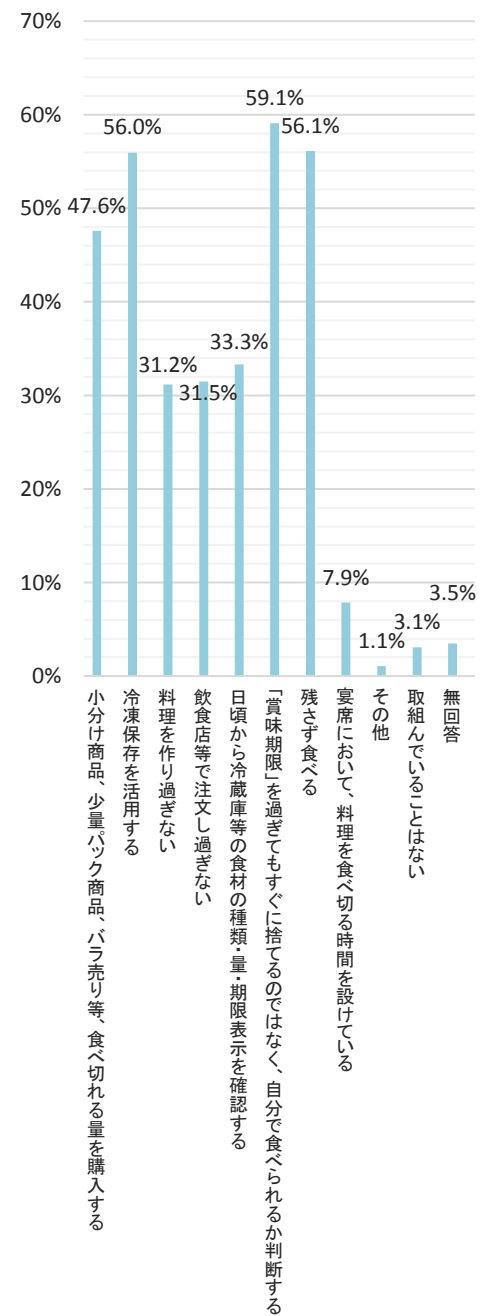
「知っている」、「ある程度知っている」人の割合: 80.5%
 ※参考: H29食育市民アンケート結果: 78.8% (1.7ポイント増)



②あなたは、「食品ロス」を軽減するために取り組んでいることはありますか。(複数選択可)

N= 1,210 (参考:H29)

ア	小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べ切れる量を購入する	576	47.6%	47.4%	↑
イ	冷凍保存を活用する	677	56.0%	55.0%	↑
ウ	料理を作り過ぎない	377	31.2%	33.4%	↓
エ	飲食店等で注文し過ぎない	381	31.5%	29.7%	↑
オ	日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	403	33.3%	33.5%	↓
カ	「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	715	59.1%	57.5%	↑
キ	残さず食べる	679	56.1%	54.0%	↑
ク	宴席において、料理を食べ切る時間を設けている	95	7.9%	5.6%	↑
ケ	その他	13	1.1%	1.7%	↓
コ	取り組んでいることはない	37	3.1%	2.6%	↑
	無回答	42	3.5%	3.3%	↑



Q20:市やNPO、企業などの食育に関する取組で、あなたが参加してみたいと思うものはありますか。(3つまで○)

N= 1,210 (参考:H29)

項目	人数	割合	変化
ア 子どもに対する食育活動	275	22.7%	↑
イ 生活習慣病の予防などの健康づくりのための食生活に関する活動	495	40.9%	↓
ウ 郷土料理、伝統料理など食文化継承活動	376	31.1%	↑
エ 食品の安全性など適切な食品選択のための活動	302	25.0%	↑
オ 食品廃棄や食品リサイクルに関する活動	172	14.2%	↓
カ 農業・収穫体験など農林漁業などに関する体験活動	160	13.2%	↑
キ 食品工場見学などの活動	336	27.8%	↓
ク その他	10	0.8%	↓
ケ 参加してみたいと思う取り組みはない	250	20.7%	↑
無回答	330	27.3%	↑

